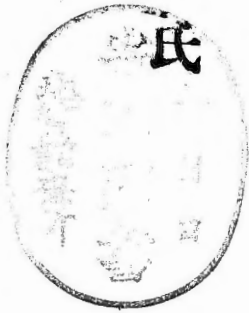


# 地質調查所報告

第六十九號

瓦利西亞油田及羅馬尼油田

金原信泰氏



SEP 12 1925

地質調査所報告第六十九號

大正七年十一月

目次

瓦利西亞油田及羅馬尼油田

一頁

瓦利西亞油田及羅馬尼油田

# 瓦利西亞油田及羅馬尼油田

## 目次

第一章 瓦利西亞油田	三頁
一 石油業ノ發達及開戰前ニ於ケル石油業	六頁
二 開戰後ニ於ケル石油業	二一頁
第二章 羅馬尼油田	三〇頁
一 石油業ノ發達及開戰前ニ於ケル石油業	三一頁
二 開戰後ニ於ケル石油業	四六頁
結章	六六頁

# 瓦利西亞油田及羅馬尼油田

農商務技師 理學博士 井上禧之助

瓦利西亞及羅馬尼ノ地質ニ關シテハ最近ノ資料ヲ得サリシヲ以テ附圖ハ在來ノ地質圖ニヨリ之ヲ縮寫塗色シタリ、又參照諸書中ニ記載セル事項中ニハ各一致セサルトコロアリ、蓋シ本報告及地質圖ハ訂正ヲ要スヘキコト多カルヘク彼此相一致セサルトコロアリ、兩油田ノ記述ニ統一セサルモノアルモ亦以テ兩油田ノ概況ヲ知ルコトヲ得ヘシト信ス、又統計中彼此多少ノ差違アルモノアリ、是レ引用書ニヨレル相違ニシテ統計者及單位計算ノ誤差ニ歸スヘキモノナルヘク、而モ其差違ハ僅少ニシテ大數ニ影響セサルナリ

奧太利ノ北東ヨリ羅馬尼ノ西部ニ互レル「カーパシアン」Carpathian 山脈地方ハ歐羅巴ニ於ケル大油田地ニシテ同山脈ノ北側ニ於ケルモノハ

瓦利西亞油田、「トランシルヴァニア」Transylvanian Alpsノ南東及南側ニアルモノハ羅馬尼亞油田ナリトス、「ブコウナ」Bukovina及洪牙利ノ油田ハ此内ニアルモ重要ナラス、此等兩油田ノ世界ニ於ケル位置ハ次表ニ示スカ如ク羅馬尼亞ハ戰前ニハ第四位ニ、瓦利西亞ハ第六位ニアリ、蓋シ歐亞大陸ニ於テハ露西亞「バク」油田ニ次キ重要ナリトス

單位千「バレル」

國名	千九百年	千九百五年	千九百十年	千九百十一年	千九百十二年	千九百十三年
北米合衆國	六三、六二〇	一三四、七一八	二〇九、五五七	二二〇、四四九	二二二、九三五	二四八、四四六
露西亞	七五、七七九	五四、九六〇	七〇、三三七	六六、一八四	六八、〇一九	六二、八三四
墨西哥		三二〇	三、三三三	一四、〇五一	一六、五五八	二五、九〇二
羅馬尼亞	一、六二九	四、四二一	九、七二四	一一、二〇七	一二、九七六	一三、五五五
蘭領印度	二、二五三	七、八五〇	一一、〇三一	一二、一七三	一〇、八四六	一一、九六七

瓦 利 西 亞	埃 太 利 亞	印 度	秘 露	日 本	其 他	總 產 出 額
二、三四七	五、七六五	一、〇七八	二七四	八六七	一、二八三	一四九、一三二
一二、六七四	一〇、五一九	四、一三七	四四八	一、四七三	推 一、二六八	二二五、三六一
八、五三五	七、八一八	六、一三八	一、三三〇	一、九三一	一、五五九	三二七、六一五
七、九三〇	七、一一七	六、四五一	一、三六八	一、六五九	一、七二一	三四五、六八五
七、八一一	七、一七	七、一七	一、七五一	一、六七一	二、〇七三	三五二、四八四
七、八一八	七、九三〇	七、九三〇	二、一三三	一、九四二	推 二、一三七	三八四、六六八

## 第一章 瓦利西亞油田

瓦利西亞油田ハ延長約二百二十哩、幅四十哩乃至六十哩ニ互リ北西ヨリ南東ニ走リ、羅馬尼及其他ノ油田ハ其南東ニ連ナレリ

「カーバシアン」山脈ハ前綠砂期、白堊紀、始新期、漸新期及中新期ヨリ成ル、基盤ハ前綠砂期層ニシテ中部及東部ニハ白堊紀層之ヲ被覆シ、始新期層及下部漸新期層ト共ニ山脈ヲ構成シ、北縁及東縁ニ於テハ上部漸新



期層及中新期層ニ被覆セラル(漸新期層ハ其區域狭小ナルヲ以テ之ヲ中新期層中ニ包括塗色シタリ)

岩石ハ頁岩及砂岩ニシテ石灰岩ハ甚タ稀ナリ、燐岩ハ厚層ヲナスコト稀ナルモ上部漸新期層ニハ厚キコトアリ、瀝青頁岩ハ泥灰岩、砂岩時ニ石灰岩ニ移過スルモ主要ナル標準地層ニシテ暗褐色ヲ呈シ暗色乃至黑色硅岩ヲ挾ミ多量ノ魚類ノ化石ヲ埋藏シ百分中二・二乃至九・一ノ瀝青ヲ含有シ火ニ投セハ容易ニ燃燒ス、本層ハ廣キ帶狀ヲナシテ瓦利西亞ノ山地ヲ略北々西ヨリ南々東ニ走リ其面積ハ一千平方基米ニ達スヘク、石油ハ此地層内又ハ之ニ近ク存在ス、地層ハ變動シ隨所褶曲スルコトアルモ概言スレハ東部及中部ニ於テハ北西ヨリ南東ニ走リ、西部ニハ東西ニ彎曲シ略山脈ノ方向ニ一致ス

石油ハ前記各地層ニ含有セラル、モ中新期層ニ在ルモノハ該層ニ胚胎スルモノナルヤ又ハ古期ノ岩層ヨリ浸透シタルモノナルヤ明カナラス、「ボリスロー」[Boryslaw]地方ニ於テハ中新期層ハ石油及地蠟ヲ含有シ

石油ニ豊富ナル上部漸新时期層ヲ被覆スルモ下部ヨリ浸透シタルヲ認メス、蓋シ「ボリスロー」、「タスタノウキス」[Tustanowice]ニ於ケル油井ハ深サ七百米乃至千六百米ニ在リテ中新期層ノ下ニ在ルカ如シ、下部漸新时期層ハ其厚サ大ナルニ比シテ石油ヲ含有スルコト尠ナシ、始新时期層ハ甚タ厚ク最モ豊富ナル含油層ニシテ全國ニ分布シ、白堊紀層ハ重要ナラス、基盤ヲナス前縁砂期層亦含油層ナリ

本油田ノ發見ハ千五百六年ニシテ千七百二十一年始メテ記載セラレタリ、當初ハ機械油トシテ使用セラレ及皮膚病ニ利用セラレ深サ四米乃至六米ノ油井ヨリ採油シタリ、千八百十年始メテ燈油ヲ蒸溜シタリ、蓋シ世界ニ於ケル製油事業ノ嚆矢ナリトス、爾來小製油所各地ニ建設セラレ、千八百五十三年ニハ製油所稍整備シ燈油ハ燈火用トシテ全國ニ普及シ、其翌年商品トシテ「ヴヰエナ」市ニ於テ發賣セラル、ニ至レリ石油需要ノ増加ハ鑿井ノ進歩ヲ促セリ、千八百六十二年マテハ油井ハ方約一米ノ鑿坑ニシテ深サ百米ニ達スルニ過キサリシモ次第ニ機械

ヲ使用スルニ至レリ、而モ深サ尙二百米ニ過キサリキ、千八百八十二年加奈太式鑿井機械輸入セラレテ其効果著シク產油額著シク増加スルニ至レリ、千九百年ニハ主ニ加奈太式鑿井法ニ據レルモ尙手掘ニ據ルモノ多ク千八百九十九年ニ手掘井二百三十三井、機械掘井千八百八十一井アリタリ、爾來手掘井次第ニ減少シ千九百十三年ニハ手掘井十五井アリシモ之ニ對シ作業スルモノナク是ヨリハ殆ント產出額ナク、機械出油井千七百五井アリ、内十八井ハ自噴ス、此外八百六十一ノ無出油井アリ、油井ハ一般ニ加奈太式鑿井法ニヨリ、水壓式鑿井ハ油層ヲ擾亂セシムル恐れアルヲ以テ政府ニ於テ之ヲ禁止スト云フ

### 一 石油業ノ發達及開戰前ニ於ケル石油業

瓦利西亞油田中當初最モ盛ナリシハ西部ニ於ケル「クロスノ」Krosno地方ニシテ「クロスノ」及「ヅクラ」Dukla間ノ「ボブルカ」Bobrkaハ千八百五十四年ニ開發セラレ千八百六十年ニハ深サ十四米ニシテ一時間六十「バーレル」ヲ產出スル良井現出シ、千八百七十四年ニハ一箇月約五千七百「バ

ーレル」ヲ産スルニ至リ、「クロスノ」ノ北々西ニアル「ウエグローカ」Węglowka  
ハ千八百八十八年ニ、「クロスノ」ノ北西ニアル「ポトク」Potokハ千八百九十  
年ニ開發セラレ、千九百一年ニハ「クロスノ」油田ノ産出額約四十八萬九  
千「バーレル」ニ達セリ

「ゴルリス」Gorlice 油田ハ「ボブルカ」油田開發後幾何ナラスシテ開發セラ  
レ、「シアリ」Siary「クリグ」Kryg「クレザニー」Klezanyニ鑿井セラレ、千八百五  
十年ニ「クレザニー」ニ小製油所建設セラレタリ

「スロボダ、ラングルスカ」Słoboda-Pungurska 油田ハ東部ニアリテ「コロメア」  
Kolomeaノ南西ニ位シ千八百八十六年ニ開發セラレ一時盛大ニシテ延  
長千五百米、幅三百五十米乃至五百米ノ面積ヲ有シ油井ノ深サ二百五  
十米乃至三百三十米、時ニ四百米ヲ超過シ、一井一日二十「バーレル」乃至  
三四十「バトレル」ヲ産出シ一日千五百「バーレル」ヲ産セシモ千八百八十  
七年以降大ニ衰へ、千九百一年ニハ一日ノ産油額二百三十「バーレル」三  
十二噸ニ減セリ

「シヨードニカ」Schodnica 油田ハ中部ニアリテ千八百九十四年ヨリ發達シ、千八百九十五年ニ鑿井セル一井ハ深サ九百八十五呎ニ於テ一日約六千五百「バーレル」ヲ噴出セルモ一箇月ニシテ千百「バーレル」ニ減少シ、其後各地ニ石油ノ試掘施行セラレテ石油業大ニ發達スルニ至レリ、就中其著シキヲ「ボリスロー」、「ダスタノウキス」油田ノ開發トシ千九百一年ヨリ産油額九十三四萬「バーレル」ニ達シ瓦利西亞石油業ノ新紀元ヲ劃スルニ至レリ

「ロギ」Rogiハ西部ニアリテ千九百二年ヨリ千九百四年ニ互リ一年七萬「バーレル」以上ヲ産出スル良井四五井アリ、其最良井ハ千九百四年六月ニ成功シ年末マテニ二十七萬餘「バーレル」ヲ産セルモ遂ニ大盛スルニ至ラス

「ポトク」ハ千九百四年頃ニハ良好ニシテ最良井一年三十二三萬「バーレル」ヲ産スルモノアリシモ是レ亦大盛スルニ至ラサリキ

「ボリスロー、ダスタノウキス」Boryslaw-Tustanowice 油田ハ瓦利西亞總産油額ノ

三分ノ二ヲ供給ス、「ボリスロー」ニハ石油泉アリテ千八百五十年ニハ既ニ掘鑿セラレタリ、千九百二年ニ深井ヲ掘鑿シ深サ八百米及九百米ニ及ヒ一日二百「バール」乃至四百「バール」ヲ産出シ爾來著シク發達セリ、「ボリスロー」ノ東部ニアル「タスタノウヰス」油田ノ盛大ナルニ至リシハ千九百六年以降ニシテ同年「ボリスロー」油田ノ産出額ヲ超過シタリ、實ニ千九百一年以降兩油田ハ瓦利西亞石油鑛業ノ中心ニシテ同國ニ於ケル石油ノ大部分ヲ産出シタリ、千九百二年ニハ「ボリスロー」油田ノ深サ九百米即チ約三千呎ノ深掘油井ヨリ著シキ產油アリテ日產三千五百「バール」ニ達セシモ油槽ノ不足及鐵道運搬不備ノ爲メ市價暴落シ唧筒ニテノ採油ハ收支相償フモノ少ナキニ至リ爲メニ數多ノ油井閉塞セラレタリ、千九百四年ニハ同油田ノ産出額ハ最高ニ達セシモ同年ノ終ニハ減退ヲ致シ、其東ニ隣「タスタノウヰス」油田次第ニ好望ナルニ至リ其產油額次第ニ増加シ、千九百九年ニ於テ同油田ノ産出額ハ最高ニ達シ瓦利西亞油田ノ總産出額千四百九十三萬千七百六十一「バール」

レル」中千二百二十六萬九千二百六十八」パーレル」ヲ產出シタリ  
 斯ク產油額增加ノ結果石油ノ過剩ヲ致シ輸出ハ外油トノ競争ニ堪ヘ  
 スシテ油價暴落シ政府ハ貯油ニヨリ之カ調節ヲ計ルニ至レリ、千九百  
 十年ニ入り產出額減少シタリ、是レ產油額過剩ノ爲メ市場ノ競争甚タ  
 シク價格暴落シ、製油ノ下落ハ製油所ノ閉鎖トナリ、羅馬尼ノ石油業勃  
 興ノ爲メ輸出減退シタルニ據ル、幸ニ政府ハ產出原油ノ約半額ヲ買收  
 シ揮發油ヲ製精シ其殘滓ヲ鐵道及海軍ニ使用シ石油業者ハ稍愁眉ヲ  
 開クヲ得タリ、千九百十一年ヨリ產油額ノ減退甚タシ、其原因ハ北米合  
 衆國其他諸國ノ外國市場占有ノ競争甚タシク石油價格ノ下落セルト  
 油井ニ多量ノ鹽水浸入シ產油量ノ著シキ減少トニ在リトス、千九百十  
 二年ニ於テモ同一ノ原因持續セリ、千九百十三年、千九百十四年ニ入り  
 テ油井ニ鹽水ノ浸入益甚タシク爲メニ產出額減退シ最盛時ノ半ニ過  
 キス、兩油田ノ產出額左ノ如シ

年 別	ボリスロ	タスタノウ井ス	總 産 出 額
千八百九十八年	九三、四七〇 <sup>パレル</sup> (一三、〇〇〇)噸		二、三七六、一〇八 <sup>パレル</sup>
千八百九十九年	一二九、四二〇 (一八、〇〇〇)		二、三一二、〇四七
千九百〇一年	三九五、四五〇 (五五、〇〇〇)		二、三四六、五〇五
千九百〇二年	九四九、〇八〇 (一三二、〇〇〇)		三、二五一、五四四
千九百〇三年	一、六二四、九四〇 (二二六、〇〇〇)		四、一四二、一五九
千九百〇四年	一、八九四、七八一 (二六三、五三〇)	六八、二三三 <sup>パレル</sup> (九、四九〇)噸	五、二三四、四七五
千九百〇五年	三、七四一、〇二九 (五二〇、三二〇)	一八四、七一 (二五、六九〇)	五、九四七、三八三
千九百〇六年	三、二九七、三三四 (四五八、六〇〇)	六三二、〇〇一 (八七、九〇〇)	五、七六五、三一七
千九百〇七年	一、九七四、六六二 (二七四、六四〇)	二、〇六七、五五六 (二八七、五六〇)	五、四六七、九六七
千九百〇八年	一、九四二、二三五 (二七〇、一三〇)	五、三三一、〇九七 (七四一、四六〇)	八、四五五、八四一



千九百八年	一、九一一、〇三〇(二六五、七九〇)	九、二五六、三三四 (一、二八七、三九〇)	一二、六一二、二九五
千九百九年	一、六〇九、二六六(二二三、八二〇)	一二、一六七、〇六二 (一、六九二、二二〇)	一四、九三二、七九九
千九百十年	一、五四〇、四五八(二一四、二五〇)	一〇、〇五三、一三〇 (一、三九八、二一〇)	一二、六七三、六八八
千九百十一年	一、四〇九、一六八(一九五、九九〇)	七、九四二、九三七 (一、一〇四、七二〇)	一〇、五一九、二七〇
千九百十二年	一、二二五、八九五(一七〇、五〇〇)	六、一五七、八〇四(八五六、四四〇)	八、五三五、一七四
千九百十三年	一、四八四、七三五(二〇六、五〇〇)	四、九八七、四一五(六九三、六六〇)	七、八一八、一三〇

千九百二年ニ於ケル油井ノ數ハ千八百二十四井ナリ、即チ一井一年ノ  
 産出額ハ二千二百七十三「バーレル」ニシテ西部ニテハ八百六十三「バー  
 レル」、東部ニテハ四千三百十四「バーレル」ナリトシ、「ボリスロー」ニ於テハ  
 二萬千五百七十「バーレル」ナリ、而シテ同油田最盛時ノ千九百五年ニハ  
 三百十一油井アリテ一井ヨリ一萬二千二十九「バーレル」ヲ産シ「ダスタ  
 ノウ井」ノ最盛時ニハ二百七十八井アリテ一井平均四萬三千七百六十

六「バーレル」ヲ産出セリ、而シテ油井ノ深サハ八百米乃至千二百米ナリトス

千九百二年ノ交ヨリ「ボリスロ」油田ニ次テ「タスタノウ#ス」油田勃興シ、爲メニ各地ニ散在セル小油田ハ殆ント忘却セラレ、千八百九十九年ニハ小油田ノ産出額二百十五六萬「バーレル」ニ達セシモ遂ニ百十萬「バーレル」内外ニ減退スルニ至レリ、千九百十年ヨリ「タスタノウ#ス」油田ノ衰退ト共ニ政府ハ石油業ヲ獎勵シ各地ニ散在セル油田ノ開發ニ努メ稍其成果ヲ見ントスルニ至レリ、其産出額ハ左ノ如シ

千九百十年	一、〇八〇、一〇〇 <small>バーレル</small>	千九百十二年	一、一五一、四七五 <small>バーレル</small>
千九百十一年	一、一六七、一六五	千九百十三年	一、三四五、九八〇

内主要ナルハ「シードニカ」Schodnica (千九百十三年ノ産出額二十一萬二千五百三十六「バーレル」)、「ポトク」Potok (千九百十三年ノ産出額九萬一千六百七十三「バーレル」)、「ビトコー」Birkow (千九百十三年ノ産出額二十

六萬四千三百四「バーレル」トシ、中部ニ於ケル「ウリツ」Uryez、「ムラズニカ」Mraznika等之ニ次キ、此外西部ニ於テ「ロギ」、「ローン」Rowne、「クロスノ」、「タルナワ、ウ<sup>#</sup>」ロポール、ザゴルツ「Tarna-wa-Wielopole-Zagorz」、「ノビランカ」Kobyłank、「クリグ」、「ザラウ<sup>#</sup>」Zalawie、「リピンキ」Lipinki、「リブスザ」Libusza等ニ少量ノ産出額アリ

此ノ如ク瓦利西亞ノ産油額ハ千九百九年ニ於テ最高千四百九十三萬餘「バーレル」ニ達シ、之ヲ五年前ノ千九百四年ノ五百九十四萬餘「バーレル」ニ比スレハ二倍半以上ノ増加ニシテ是レ全ク「タスタノウ<sup>#</sup>」油田ノ開發ニ依ル、同年以降價格ノ暴落ト油井内鹽水浸入トノ爲メ、産油額次第ニ減少シ、四年後ノ千九百十三年即チ戰爭開始前ニハ千九百九年ノ産油額ノ約半額即チ七百八十一萬「バーレル」ニ減退シタリ、是レ亦「タスタノウ<sup>#</sup>」油田ノ油井内ニ鹽水浸入ノ結果産出額著シク減少シタルニヨル、蓋シ「ボリスロー」其他ノ油田ニ於テ多少産油額ノ増加アリシモ大勢ヲ支フルニ足ラス、爲メニ輸出ハ減退シテ輸入増加シ、北西部ニ於ケ

ル鐵道ニハ一部石油燃料ノ使用ヲ止メ復ヒ石炭ヲ使用スルニ至レリ、  
即チ政府ハ新油田ノ發達ニ努ムルト共ニ中部及東部油田ニ深掘ヲ試  
ミ「ビトコ」等ニ出油ヲ見ルニ至リ減退ヲ防止センコトヲ期シ、「ポリス  
ロ」油田ハ稍恢復スルニ至リ千九百十四年ニハ中部瓦利西亞ニ於テ  
活潑ニ鑿井セル結果「ポリスロ」油田ハ南方ニ擴カリ「ムラズニカ」油田  
ノ發達ト共ニ兩油田ハ殆ント相連絡セントスルニ至リ、同年八月現戰  
爭地域トナレリ

市場ノ狀況ヲ見ルニ瓦利西亞ハ海港ヲ有セサルヲ以テ輸出困難ナル  
ノ事情アリ、而シテ隣國露西亞ハ外油ニ對シテ殆ント禁止的ノ輸入稅  
ヲ課シ羅馬尼ニハ多大ノ產出額アリ、澳太利ハ瓦利西亞油田ノ產出額  
ヲ消費スル能ハス、從テ千九百八年又ハ千九百九年ノ如キ產出額ノ非  
常ニ増加シタル時ハ貯油増加シ獨逸ヲ除ケハ適當ナル市場ナク價格  
ハ暴落シ石油業ハ收支相償ハサルニ至レリ、蓋シ瓦利西亞石油業ノ發  
達以前即チ千九百年前數年間ハ澳、洪國ハ露西亞及羅馬尼殊ニ露西亞

ヨリ石油ヲ輸入セリ、輸入ノ最モ大ナリシハ千八百九十三年ニシテ露  
西亞ノ九十四萬一千餘「バーレル」十三萬九百餘噸、羅馬尼ノ十萬七千餘  
「バーレル」(一萬四千九百餘噸)、合計百四萬八千餘「バーレル」十四萬五千八  
百噸ナリ、爾來石油業ノ發達ト共ニ輸入ハ年々減少シ露西亞ヨリノ輸  
入ハ千九百年ノ約二十九萬五千「バーレル」(四萬千噸)ヲ終リトシ、同年ノ  
輸入額ハ總計約四十五萬九千「バーレル」(六萬三千八百噸)ニシテ羅馬尼  
ハ約十六萬四千「バーレル」(二萬二千八百噸)ヲ輸入シタリ、爾來輸入ハ專  
ラ羅馬尼ヨリシ七萬「バーレル」乃至十四萬「バーレル」ノ間ニアリ、唯千九  
百九年ニハ九千八百「バーレル」(千三百六十噸)、千九百八年ニ二萬二千三  
百「バーレル」(三千百十噸)ニ減シタルノミ、而シテ千九百十三年ニハ羅馬  
ニヨリ十三萬七千四百餘「バーレル」(一萬九千二百二十噸)ヲ輸入シタリ  
產出額ハ需要ニ對シテ餘リアリ、隨テ千九百八年ノ如キ價格甚タシク  
暴落シタリ、而シテ燈油及機械油ハ主ニ獨逸ニ輸出セラル、茲ニ燈油ノ  
ミニ關シ產出額ト消費額ヲ對比セン

年 別	産 出 額	消 費 額	輸 入 額	輸 出 額
千九百年	一、五三九、〇九一 <sup>バール</sup>	一、五七九、六四三 <sup>バール</sup>	三三、七九三 <sup>バール</sup>	一五一、四九三 <sup>バール</sup>
千九百五年	二、八五五、七九六	一、七七四、四九二	七〇、六七八	一、二五一、九八二
千九百十年	四、〇六五、二九八	二、一五七、九三五	一〇、四九七	一、九一七、八六一
千九百十三年	四、〇二一、五一一	二、二八〇、二三七	一三、五八九	一、七五四、八六三

此外揮發油、機械油、石蠟等ノ輸出モ亦重要ニシテ其輸出ハ千九百一年  
 ニ始マリ、千九百十三年ニハ揮發油三十五萬七千八百四十六「バール」  
 (四萬九千七百七十噸)、機械油十四萬千四百二十七「バール」(一萬九千六  
 百七十噸)、石蠟三十萬九千八百八十九「バール」(四萬三千百噸)ニ達セリ  
 製油所ハ千九百三年ニハ奧、洪國ニ九十九アリ、内五十四製油所ハ瓦利西  
 亞ニアリテ其規模概シテ小ナリトス、戰前ニハ「ドロホピツ」Drohobycz 國立  
 製油所ノ外瓦利西亞ニ大規模ノ製油所十四、奧、太利及洪牙利ニ各十一

アリ、此外小製油所ヲ合セ一年ノ製油能力千五六百萬「バール」ニ達ス、國立製油所ハ千九百十年ニ建設セラレ千九百十二年完成シ現ニ最大ナル製油所トシテ一年三百餘萬「バール」ヲ製油スルヲ得ヘク、之ニ「ドロホビツ」州ニ於ケル三大製油所ノ能力ヲ加ヘ同州ニ於ケル製油能力約四百四十萬「バール」ナリ、之ニ次クヲ西部ノ「リマノウ」Limanova 州ノ百餘萬「バール」トシ、其他ハ七十餘萬「バール」ニ滿タス、瓦利西亞ニ於ケル製油能力ハ十四大製油所及三十六小製油所ヲ合シ約八百五十三萬「バール」、埃國製油所約四百三十一萬「バール」、洪牙利製油所約二百六十九萬「バール」、合計千五百五十三萬「バール」トス、左ニ千九百十年ヨリ千九百十三年ニ至ル製油ノ現況ヲ表示セン

年 別	製 油 所 送 油 額			ドロホビツ 國立製油所	合 計	輸 出 額	燃料ニ使用
	瓦利西亞 ブユウ井ナ	其他ノ埃國	洪 國				
千九百十年	二、六〇〇、九三〇 (三、九一、六〇〇)噸	三、九九七、七六〇 (五、四七、九五〇)噸	二、一三六、三四二 (三、九、三六〇)噸	一、〇〇〇、九八四 (〇、八七、七六〇)噸	一〇、三三四、〇七 (一、四八、二五〇)噸	二三、五六三 (三、二六〇)噸	七〇〇、五三三 (九七、四〇〇)噸

年末ニ於ケル貯油額ヲ舉クレハ左ノ如シ

千九百十一年	二、八八、六四〇 (三七二、三〇〇)	三、五二四、二五六 (四八八、七七〇)	二、四九六、八五〇 (三四七、五八〇)	二、四九五、四七五 (三七七、三四〇)	二、二五七、四四〇 (一、五五五、六八〇)	六〇四〇〇 (八四〇〇)	六四七、九六二 (九〇、二〇〇)
千九百十二年	三、八三五、八六五 (五三三、五〇〇)	三、四七、八〇〇 (五三三、一六〇)	二、二五七、八〇〇 (三三三、九三〇)	二、七六六、三二一 (〇七二、二七〇)	三、六二七、四四三 (一、七五四、八〇〇)	七、六六二 (一、〇二〇)	三四三、八三三 (三三、九〇〇)
千九百十三年	三、〇七五、一五〇 (四七四、四三〇)	四、〇三三、七七七 (五八四、六七〇)	一、九一九、〇〇一 (二六、九三〇)	一、三六五、〇九三 (一八九、八六〇)	二、五六一、〇三二 (一、四六八、八五〇)	一、〇七九 (一、五〇〇)	四三、二三五 (五、八七〇)

年 別	數	量	年 別	數	量
千九百二年	五五二、四八〇	パーレル (七六、八四〇) 噸	千九百十年	一〇、一八九、五九六	パーレル (一、四一七、一九〇) 噸
千九百五年	二、九八二、六二八	(四一四、八三〇)	千九百十三年	五、七〇九、七九五	(七九四、一三〇)

原油一噸(七・一九「パーレル」)ノ價格ヲ舉クレハ次ノ如シ

年 別	價 格	年 別	價 格
千八百八十四年	一一七・〇	千九百一年	六五・二



千九百五年	二八・五	千九百十三年	九〇・八
千九百十年	三〇・二		

最低價格ハ千九百八年ノ十二「クローネ」トシ、千九百九年ノ十五・八「クローネ」之ニ次ク、即チ本油田ノ最盛時ニハ貯油ノ増加、價格ノ下落ヲ證シテ餘リアリ

瓦利西亞石油業ノ發達ハ白、佛、英、獨ノ資本ニ待ツモノ多ク、千九百二年ニハ產油額ノ六割ハ外國資本家ニ屬シ四割ノミ羅馬尼資本家ノ所有ナリキ、千九百十一年ヨリ英國ハ殊ニ「タスタノウス」油田ニ資本ヲ投下シ、同年五月ニハ「タスタノウス」ニ於テ一日五百七十八「バーレル」以上ノ產出アル油井ハ英國又ハ其他ノ資本家ノ所有ニ歸シ新會社ハ英國ノ資本ニ依リ設立セラル、ニ至リ、千九百十年六月マテハ英國ニ屬スル產油額四「バーセント」ナリシモ千九百十一年五月ニハ五十一・二「パーセント」ニ増加シ戰前ニ於テハ英國ノ資本ハ六割ヲ占ムルニ至レリ

## 二 開戦後ニ於ケル石油業

現戦局ノ開始ト共ニ中央同盟國ニ於テハ歐洲ノ中央ニ於ケル油田最モ重要トナリ、北米合衆國、露西亞、墨西哥、蘭領印度等ハ固ヨリ羅馬尼ヨリモ石油輸入ノ困難アリ、殊ニ揮發油及石油殘滓ノ輸出禁止ト共ニ埃太利殊ニ獨逸ハ必要ナル揮發油及石油殘滓等石油製品ノ貯藏ヲ完成スルノ必要ヲ感シ、「ボリスロト」、「タスタノウ<sup>#</sup>ス」地方ノ産油ハ最モ重要ナルニ至レリ、蓋シ千九百十三年秋期ニハ瓦利西亞油田ノ月産額ハ約五十二萬「バーレル」ニ減シ千九百十四年六月ニハ約六十四萬「バーレル」ニ達セシモ固ヨリ埃、洪國製油所ノ需要ヲ充タスニ至ラス、戦争ノ開始ト共ニ産出額ハ甚タシク減少シ最モ利害ノ關係ヲ有スル英國人ハ大本油田ノ前途ヲ悲觀スルモノアルト共ニ、戦後ニ於ケル石油事業ノ好望ト戦争ニ依レル發達トヲ期待シ樂觀ニ傾ケルモノアリ、然ルニ同年九月露軍ハ此地方ヲ占領シ英國資本家ノ愁眉ヲ開クト共ニ露國政府ハ活潑ニ本事業ニ從事シ石油業ハ漸次盛大ナラントスルノ機運ニ向

ヒ産出額増加セントセリ

千九百十四年九月十九日露軍ハ「ボリスロフ」、「タスタノウキス」地方ト共ニ「ドロホビツ」州製油業ノ中心地ナル「ストリ」Staryヲ占領シ、千九百十五年五月中旬マテ同地ニ止マリ、其間石油事業ハ甚タシキ障害ヲ受ケサリシモ運搬不便ニシテ「ドロホビツ」ノ國立製油所ニ於テ十八九萬「バール」ヲ處理シタルノミ、其間ノ産出額ハ次ノ如シ

合	計	千九百十四年	八月	三七三、八八〇 <small>（五二、〇〇〇）噸</small> <sup>バール</sup>	千九百十五年	一月	二八五、四四三 <small>（三九、七〇〇）噸</small> <sup>バール</sup>
		同	九月	一七六、八七四 <small>（二四、六〇〇）噸</small>	同	二月	二八〇、四一〇 <small>（三九、〇〇〇）噸</small>
同	同	同	十月	一三六、六一〇 <small>（一九、〇〇〇）噸</small>	同	三月	三一二、七六五 <small>（四三、五〇〇）噸</small>
同	同	同	十一月	一七一、一二二 <small>（二三、八〇〇）噸</small>	同	四月	三三六、四九二 <small>（四六、八〇〇）噸</small>
同	同	同	十二月	二六三、一五四 <small>（三六、六〇〇）噸</small>	同	五月	一五〇、九九〇 <small>（二一、〇〇〇）噸</small>
				二、四八七、七四〇 <small>（三四六、〇〇〇）噸</small> <sup>バール</sup>			

開戦前獨、塙ニハ相當ノ貯油アリシナルヘシト雖モ獨逸ニ産スル百萬  
「バーレル」未滿ノ石油ヲ以テシテハ到底戰爭ヲ繼續スルコト能ハスシ  
テ本油田ノ恢復ヲ劃スルハ必至ノ勢ナリキ、即チ千九百十五年五月ニ  
露軍ハ破レテ退却ヲ開始シ、同月十二日「ポリスロー」附近ノ「コルピーク」  
Kolpiec 及「モブリツ」Mobriezニ於ケル貯油ニ放火シ、十三日特ニ任命セラ  
レタル「コサク」分隊ハ規律正シク石油地ノ破壊ヲ開始シ、貯油約五百九  
十七萬「バーレル」中約二百三十萬「バーレル」ヲ燒却シ、千九百十四年戰爭  
開始時ト同一ナル貯油量即チ約三百六十七萬「バーレル」ヲ餘セリ、而シ  
テ「タスタノウ<sup>ホ</sup>ス」油田ニ於ケル三百十九油井中、二百二十九井ヲ破壊シ  
タルモ「ポリスロー」ニ於テハ一モ油井ヲ破壊スルコトヲ得サリキ、獨、塙  
軍ノ本油田ヲ恢復スルヤ極力之カ復舊ヲ計レルモ、鐵道ハ軍隊ノ輸送  
ニ當リ工場ハ軍需品製造ニ忙殺セラレ、石油業ノ再開ハ甚タ困難ナリ  
シモ漸次之カ恢復ヲ見ルニ至リ、八九月頃ニハ一箇月ノ産出額約四五  
十萬「バーレル」ニ増加セリ

戰爭開始後亞米利加ヨリノ輸入絶ユルト共ニ各製造所ニ於ケル製品ノ量ニ於テ變化ヲ致シ、機械油ノ製出量ハ比較的増加セリ、特ニ「ドロホビツ」國立製油所、開戦前佛蘭西ノ經營シタル「ソマノヴ」*SOMANOVA* 製油所ニ於テ機械油、揮發油等殊ニ軍事ニ必要ナル製品ヲ製造シタリ

戰爭開始後原油ノ價格上昇シ各油田ニ於テ天然瓦斯ヲ使用シ又蒸汽機關ヲ代用スルニ至リ、鑛山局ハ坑夫ヲ適宜ニ配置シテ油井及製油ノ整理ヲ計リ、千九百十五年八月十日ニハ國立製油所ニ送致スヘキ原油ノ量ヲ定メ價格ヲ「バーレル」*「バール」*トシ、製油所ハ燃料、機械油其他軍需品ノ製造ニ忙殺セラレタリ

爾來露國ハ攻撃ヲ再開シ本油田ノ占領ヲ企劃シ一部分ハ時ニ爭奪ノ域ニアリシモ獨、埃國ハ其占領ノ如何ハ同國ノ安危ニ關スルモノアルヲ以テ善戰以テ露軍ヲ擊退シ主要部ハ確實ニ之ヲ領有シ、羅馬尼ヨリノ輸入ト共ニ不充分ナルモ貯油ト合セ僅カニ國內ニ於ケル石油及其製精品ノ需要ニ應シタルカ如シ

獨、埃軍ニ復歸セル瓦利西亞油田ノ產油額ハ精確ニ之ヲ知ルヲ得サルモ六月ニハ既ニ採油シ七月ニハ大ニ恢復シ產油額五六月ニ倍加シ漸次増加シテ以テ千九百十六年ニ入レリ、千九百十五年獨、埃軍ニ恢復セラレシ以降同年ノ產油額左ノ如シ

六 月	一九〇、三一九 <small>（六二、四七〇）</small> <sup>バレル</sup> 噸	十 月	四五二、五三九 <small>（六二、九四〇）</small> <sup>バレル</sup> 噸
七 月	三七〇、二一三 <small>（五一、四九〇）</small>	十一 月	四三〇、三九三 <small>（五九、八六〇）</small>
八 月	四三七、七九九 <small>（六〇、八九〇）</small>	十二 月	四六八、三四二 <small>（六五、一三八）</small>
九 月	四六二、二四五 <small>（六四、二九〇）</small>		

千九百十六年上半期ニ於ケル主要地域ノ產油額ハ左ノ如クニシテ千九百十四年ニ於ケルヨリ二割ノ減少ナリトス

千九百十六年

ドロホピツ州

シヤスロ州

スタニスロ州

一	月	四八二,八八〇 <small>（六七,一六〇）噸</small>	三五,六六二 <small>（四,九六〇）噸</small>	二一,二二一 <small>（二,九五〇）噸</small>
二	月	四六六,三四三 <small>（六四,八六〇）</small>	三四,三六八 <small>（四,七八〇）</small>	一九,五五七 <small>（二,七二〇）</small>
三	月	五一五,六六七 <small>（七一,七二〇）</small>	三七,八一九 <small>（五,二六〇）</small>	一九,九八八 <small>（二,七八〇）</small>
四	月	四九四,七四四 <small>（六八,八一〇）</small>	三七,八一九 <small>（五,二六〇）</small>	二一,三五四 <small>（二,九七〇）</small>
五	月	五二八,三九三 <small>（七三,四九〇）</small>	三九,六一七 <small>（五,五一〇）</small>	二七,六八二 <small>（三,八五〇）</small>

千九百十六年ノ總産油額ハ六百四十六萬千七百三「バーレル」(八十九萬八千七百七噸)ニシテ戰前ノ七百八十一萬八千三百三「バーレル」ニ比シ百三十萬「バーレル」弱ノ減少ナリトス

獨、塊ニ於ケル石油ノ需要ハ莫大ニシテ産出額ハ之ヲ充タスコト能ハス、隨テ次第ニ貯油ヲ使用シ千九百十六年一月ニ於ケル原油ノ貯藏高ハ約三百四十五萬「バーレル」ナリ、同年五月一日ニハ「ボリスロー」、「タスタノウ#ス」地方ニアル百四十ノ油槽中ニ約二百二十九萬「バーレル」ノ原油

ヲ貯藏セシモ同月末ニハ約百七十六萬「バーレル」ニ減シ、同月約七十七萬「バーレル」ハ輸送セラレ、約十二萬「バーレル」ハ國立製油所ニ、約十五萬「バーレル」ハ「ドロホビツ」ノ私立製油所ニ送致セラレタリ

貯油ノ減退ト共ニ政府ハ極力產油額ノ増加ヲ計リ新ニ鑿井スルノ外閉塞セラレタル油井ヲ開掘シ、價格ハ「バーレル」十九「クローネ」半ニ暴騰セルモ高價ハ斯業ヲ獎勵スルノ方法ナリト思惟シ政府ハ之ヲ調節スルニ意ナシ

斯ク努力スト雖モ供給ハ以テ需要ヲ充タスニ足ラス、羅馬尼ヨリノ輸入ニヨリテ僅カニ之ヲ補フヲ得タルモ供給意ノ如クナラス、蓋シ獨逸ハ夙ニ羅馬尼ノ油田ニ著眼シテ同國ノ向背ヲ明カニセンコトヲ希望セシナルヘク、同國ノ參戰スルニ至リテ獨逸ハ益石油ニ缺乏シ隨テ同國ノ油田ヲ併吞セサルヘカラサルニ至レリ、其參戰ノ如何ハ之ヲ知ラスト雖モ遂ニ獨逸ニ大光源ヲ附與スルノ結果ニ終ハリ、此大戰爭ニ獨逸軍ニ大ナル武器ヲ供給スルニ至リタルハ實ニ痛歎ニ堪ヘサルナリ



千九百十七年ニ入りテハ鑿井盛ナリシモ産油額ハ増加スルニ至ラス  
 シテ需要ニ應スルニ足ラサルヘシ、左ニ三月ヨリ七月ニ至ル主要油田  
 ノ産出額ヲ擧ケン(三月及五月ノ産油額ハ同一ニシテ疑フヘキモノナルモ暫ク之ヲ掲ク)

月	タスタノウヰス	ボリスロ	ムラヅニカ	シヨードニカ	ウリツ
三月	二六七、四〇〇 <small>パレル</small>	一三七、カ〇〇 <small>パレル</small>	二八、〇〇〇 <small>パレル</small>		
四月	二六五、二五一	一四〇、七七〇	二七、五九四		
五月	二六七、四〇〇	一三七、九〇〇	二八、〇〇〇	一四、〇〇〇 <small>パレル</small>	五、一一〇 <small>パレル</small>
六月	二五七、五二四	一五二、八二三	三二、九六六		
七月	二五二、五二七	一六五、三三四	三六、二八八		

獨、埃政府ハ産油額ヲ増大スルニカメ羅馬尼及露西亞ノ捕虜中ノ鑿井  
 者三百三十五人ヲ「ボリスロ」、「タスタノウヰス」油田ニ送りテ其事業ニ從  
 事セシメ之カ材料ヲ供給セルモ産油額大ニ増加スルニ至ラス、而シテ

三月末ニハ原油一「バーレル」四十五・七五「クローネ」ニ騰貴シ四月一日ニハ四十五「クローネ」ニ下落シ、戰時規則ノ壓迫ノ爲メ四十「クローネ」ヲ稱フルニ至リ、五月ノ初ニハ四十二「クローネ」トナレリ、而シテ同年ニハ露西亞革命ノ爲メ其軍ハ退却シ「ビトコー」及「ソロトウ<sup>#</sup>ナ」Solov'inaノ重要ナル産油地ハ復ヒ獨軍ノ手ニ歸シ瓦利西亞石油業ニ重要ナル發達ヲナスニ至リ、此外「ペゼニジ<sup>r</sup>」Pezenzin<sup>yu</sup>製油所及「コロメア」製油所亦露西亞ノ手ヲ離レタルモ直ニ事業ヲ開始シ得ルヤ否ヤ明カナラス、現時「ビトコー」ノ産出額ハ一日約三百六十「バーレル」(五十噸)ナルモ「ソロトウ<sup>#</sup>ナ」ノ油田ハ全部破壊セラレタリ

此ノ如クニシテ瓦利西亞ノ油田ハ完全ニ獨、獨軍ノ手ニ歸セリ、同油田ノ産出額ハ前述ノ如ク一箇月五六十萬「バーレル」内外ト推定スルヲ至當ナリトスヘク、之ニ獨逸ノ所産ヲ加フレハ獨、獨ノ有スル石油ハ一年七八百萬「バーレル」ニ達スヘク、此外羅馬尼亞ヨリノ輸入アリテ僅カニ需要ニ應スルヲ得タルヘキモ動モスレハ不足ヲ感シタルナルヘク、茲ニ

於テ羅馬尼ノ參戰ハ大ニ意義アルモノニシテ獨逸ニ於テハ其意ヲ得タルモノナラン

## 第二章 羅馬尼油田

羅馬尼油田ハ瓦利西亞油田ニ連續シ「トランシルヴァニア、アルプス」山脈ノ東側及南側ヲ占メ、其延長約四百哩、幅十五哩乃至二十哩ニ達ス、地質モ亦瓦利西亞ヨリ連續シ基盤ハ前綠砂期層及白堊紀層ニシテ時ニ重要ナル含油層タルコトアリ、之ヲ被覆スル始新期層及漸新期層ニモ石油ヲ胚胎ス、主要ナル含油層ハ漸新期層ヲ被覆スル中新期層及鮮新期層ナリト云ヒ「カーパシアン」山脈ノ大彎曲ヲナセル結果其邊縁ニ沿ヘル地層ニ數多ノ穹窿狀構造形成セラレ、石油集中ニ適スト稱セラレ、地層ハ概シテ山脈ノ走向ニ並走ス、石油ハ多クハ地下百米乃至四百米ノ間ニ胚胎スルカ如ク鑿井比較的容易ナリト云ヒ、岩石ハ頁岩ニシテ砂岩及砂質粘土ト互層ス、石灰岩及緻密ノ砂岩ハ稀ナルモ石膏及岩鹽ハ各所ニ存在シ普通背斜軸附近ニ胚胎ス

## 一 石油業ノ發達及開戰前ニ於ケル石油業

羅馬尼ニ於テハ石油ハ千七百五十年既ニ藥劑ニ使用セラレタリ、其當時ニ於ケル重要ナル産地ハ「ブラホヴァ」Prahova州「バキレンチ」Pacuretiニシテ其附近ヨリ一年百五十「バーレル」内外ヲ産出シタルカ如ク、千八百三十二年手掘ニヨリ開發セラレ石油ハ車軸ノ減磨劑等ニ使用セラレ、千八百五十年頃ニハ主要ナル都府ニ不完全ナル小製油所アリシモ過半ノ原油ハ境ヲ越エテ洪國「クロンスタット」Kronstadt並ニ「トランシルヴァニア」Transylvania及瓦利西亞ノ都府ニ於テ稍完全ニ製油セラレタリ、千八百六十六年以降大規模ノ製油所同國ニ設立セラル、ニ至リテ同年始メテ製油ヲ輸出シタリ、二年後亞米利加ト市場ニ於ケル競争ノ爲メ産出額減退シ、千八百八十二年ヨリ稍恢復シ千八百九十年以降小會社ハ合併シ新製油所設立セラレ外國ノ資本投下セラル、ニ至レルモ未タ大ニ發達スルニ至ラス、其當時ニ於ケル産油地ハ「ダムボヰツァ」Damboviza州「グラデニ」Gladeni「ブラホヴァ」州「カムピナ」Cumpina「ブゼウ」Buzeu州「サラタ」Sarata

「バカウ」Bacau 州「ソロンナ、モイネシ」Solonci-Moinesi ニシテ總産油額一年約四十三萬「バーレル」ナリトシ、製油所ハ「ブカレスト」Bukarest「モンテオル」Monteoru「カムピナ」「モイネシ」ニアリテ鐵管ニヨリ産油地ニ連絡セリ、千八百九十五年ニハ産出額ハ五十七八萬「バーレル」ニ達シ輸出ニ便スル爲メ「ギウルギウ」Giurgiu (Giurgevo) ニ油槽ヲ設置シ、是ヨリ油槽船ニヨリ「ラチスボン」Ratisbon ニ送り南獨逸及瑞西ノ市場ニ供給スルト共ニ、同一ノ設備ヲ黑海沿岸ノ「コンスタンザ」Constantza ニ設置シ是ヨリ地中海ノ諸港其他ノ地方ニ搬出シタリ、然レトモ千八百九十九年ニ至ルマテハ産出額及輸出額共ニ大ナラスシテ同年百四十二萬六千「バーレル」ヲ産出シタリ

鑿井ハ當初ハ手握ノミニシテ「バステナリ」Bustenari「モルダヴ<sup>#</sup>ア」Moldavia「ウワラチア」Wallachia 等ニ盛ナリ、油井ノ大サハ地質ニヨリ異ニシテ徑三呎ノ圓形ノモノヨリ三呎半ノ方形ノモノナリ、探掘土砂ハ三脚起重機ニヨリ人力又ハ馬力ヲ以テ井外ニ搬出シ第一油層、第二油層、第三油層、第四

油層ノ石油ヲ採取セリ、其深サ普通五百呎ナルモ九百呎ヲ超過スルモノアリ、而シテ一日百三四十「バーレル」ノ原油ヲ深サ約五百呎ノ井内ヨリ汲取ス、而シテ千九百十六年ニハ殆ント手掘井ナク唯數井ノ土民ニヨリ掘下セラレタルノミ

千八百八十年始メテ機械鑿井ヲ開始シ、千八百八十六年ヨリ千八百八十八年ニハ「ペンシルヴァニア」式鑿井ニヨリ千餘尺ニ掘下セシモ其結果良好ナラス、次テ加奈太式鑿井機械輸入セラレ其結果良好ニシテ千九百十六年ニ至ルマテ繼續之ニヨリ鑿井セリ、千八百九十八年水壓鑿井機械輸入セラレタルモ其結果良好ナラス、而シテ千八百九十九年ニハ手掘出油井六百二十ニ對シ機械出油井五十一アリシノミ、然レトモ後者ヨリノ產油額多カリシト云フ、千九百四年「ペンシルヴァニア」式鑿井機械再ヒ輸入セラレ良果ヲ奏セシモノアリシモ不結果ニ終ハリシモノ多ク、同年ヨリ翌年ニ互リテ「ロタリー」式鑿井機械輸入セラレタルモ其結果亦良好ナラス、千九百十二年再ヒ輸入セラレ翌年ニ至リ良果ヲ奏

シ茲ニ廣ク使用セラル、ニ至リタルモ地質ノ如何ニヨリ鑿井法ヲ異ニス

千九百年政府ハ其財政ヲ補足スル爲メ及石炭ノ甚タ高價ナル爲メ(羅馬ニハ石炭ノ產出額甚タ少ナク其需要ノ大部ハ輸入炭ニ待ツ)石油業ノ發達ヲ期シ鐵道運搬ノ促進ヲ計リ「コンスタンザ」ノ海港ニ於ケル設備ヲ改良シ「ブレーラ」Braila「セルノヴァダ」Cernovoda「ギウルギウ」等「ダニユ」一「ブ」河沿岸ノ河港ヲ開キ、鐵管敷設ヲ企テ大ニ斯業ノ指導開發ニ努メ其結果石油業大ニ發達スルニ至リシモ、資本ノ缺乏セルコト、商業上經驗少ナキコト、技術者ノ缺乏セルコトノ爲メ意ノ如ク發達セス、殊ニ千九百一年ニハ露西亞「バク」、北米合衆國「テキサス」ニ大噴油アリシ爲メ價格一「バーレル」一弗五仙ヨリ九十二仙ニ下落シ、翌千九百二年ノ下半年期ニハ貯油槽ノ缺乏ニ加フルニ販路少ナキ爲メ產油額稍減少スルニ至リシモ幸ニ鐵道ニ於テ之ヲ使用シ、千八百九十四年ニハ鐵道ハ一年僅カニ三千餘「バーレル」ヲ使用セルニ過キサリシモ千九百二年ニハ其使

用量二十八萬九千餘「バレル」ニ増加シ千九百四年ニハ「ダニューブ」河ノ汽船  
ニモ石油ヲ使用スルニ至レリ  
千九百三年ニ輸出セル石油製品ハ八十五萬「バレル」ニシテ、英、獨、佛、  
伊、勃、牙、利ニ輸出セリ、而シテ千九百五十六年ニハ外國ノ資本ト政府ノ獎  
勵トニ加フルニ同國ノ地質ニ特ニ適應スル鑿井ニ改良シ、運搬、製油、商  
業等次第ニ改良セラレテ產出額増加シ、石油業ハ好況ヲ呈スルニ至リ、  
千九百年ノ產出額百六十二萬八千餘「バレル」ヨリ千九百六年ニハ六  
百三十七萬七千餘「バレル」、千九百七年ニハ八百一十一萬七千餘「バレー  
ル」ニ達シ、爾來次第ニ増加シテ千九百十一年ニハ千九百十萬千餘「バレー  
ル」ニ増加シタリ、而シテ千九百十年ニハ獨逸ノ五百四十萬磅ノ投資ヲ  
第一トシ、和蘭二百二十四萬磅、羅馬尼二百萬磅、佛國百六十萬磅、英國百  
二十八萬磅、合衆國九十二萬磅、其他ヲ合シ投資額千四百六十八萬磅ニ  
シテ千九百十四年ニハ二千萬磅ヲ超過シ、四大會社ノ資本過半ヲ占メ  
其產油額四分ノ三ヲ占ムルニ至レリト云ヒ、開戰前ニ於ケル各國資本



ノ百分率ハ大要左ノ如シト云フ

獨逸	二六	北米合衆國	一八	佛國	一六
英國	六	白國及伊國	二	和蘭	九・六

鑿井ハ前記ノ如ク當初ハ手握ニヨリ後機械掘次第ニ増加スルニ至レ  
 ルモ千九百四年ニハ手握出油井七百四十三井ニ對シ機械掘出油井ハ  
 僅カニ二百二十井ニ過キス、然レトモ機械掘井ノ増加ニ對シ手握井ハ  
 次第ニ減少ノ傾向ヲ呈シ遂ニ千九百八年ニハ機械掘出油井數ハ手握  
 出油井數ヲ超過シ六百八十一井對五百八十三井トナリ、千九百十三年  
 ノ終ニハ機械掘出油井九百四十四井ニ對シ手握出油井ハ五百三十七  
 井トナレリ、手握ハ深サ百五十米乃至二百五十米ノ鑿坑ニシテ機械井  
 ハ多クハ深サ二百米乃至三百米ナルモ「Moreni」「カムピナ」地方ニ  
 於テハ深サ四百米乃至六百米ナリトス  
 羅馬尼ノ石油業ハ殆ント「ブラホヴ」州ノ占ムルトコロニシテ當初「カ

ムビナ「盛大ナリシモ千九百五年ニハ」バステナリ」Busanariニ於テ約二百九十五萬「バーレル」ヲ産出シテ第一位トナリ、「カムビナ」ノ産油額ハ六十七八萬「バーレル」ニシテ遙カニ之ニ及ハス、千九百六年ニ「モレニ」Moroni油田大ニ開發セラレテ百十六七萬「バーレル」ヲ産出シ「バステナリ」ハ同年約三百六十七萬「バーレル」ヲ産出シ最高ニ達シ、爾來其附近ノ「ボルデニ」Bordani油田發達セシモ次第ニ減退ニ傾ケルニ反シ「モレニ」油田ノ發達ハ顯著ニシテ千九百十三年ニハ七百四五萬「バーレル」ヲ産出シテ總産油額ノ過半ヲ占ムルニ至レリ、同州ノ千九百五年以降ノ産出額左ノ如シ

	千九百五年	千九百六年	千九百十年	千九百十一年	千九百十二年	千九百十三年	千九百十四年
プラホヅア州	四、〇八六、〇〇〇 (五、六、九九九)	六、〇八四、〇〇〇 (八、四六、一八九)	八、九五七、七九 (二、四、三三三)	九、九五五、〇〇〇 (一、六四、五六三)	二、六五〇、〇〇〇 (一、六二七、三九七)	三、〇三三、〇三七 (一、五七、七九九)	二、〇四三、六九 (一、五、五七七)
バステナリ	二、九五八、〇二六 (四、一、四三)	三、六六六、八六四 (五、〇九、九九五)	三、二八八、五五四 (三、八、六九九)	二、四三三、九八五 (三、一、九九九)	二、一六八、七七 (三、〇一、五三)	二、八二九、九八五 (三、〇九、六四)	二、一三三、七七 (三、九三、九九)
カリネド、 ボルデニ							

カムピナ、 ボイアナ	六八二、〇四三 (九四、八六〇)	七五四、四四四 (一〇、四八八)	二、三九七、〇七 (三三、三八〇)	二、二五〇、七四 (三三、〇四四)	三、二五、九六三 (二五、〇三)	一、七五三、三二 (二四、七五)	一、三五四、七四八 (七四、五三)
モレニ		一、七〇、七五 (二六、八〇六)	五、五三、六三五 (四三、八七五)	四、三二、七六 (五八、三三四)	六、三三、五九六 (八八、〇〇)	七、〇〇、四三 (九八、九三五)	六、四二、九三〇 (八九六、〇九六)
其他	四四六、〇〇〇 (六二、〇三〇)	五三三、三六 (七、四〇〇)	一、二五、七三 (五、一七七)	一、三三、三五 (一七、四三三)	一、〇三、八四九 (三三、三六〇)	一、〇六、五五〇 (四八、四七七)	一、三六、八四 (二、一九三)
ダムツア グサツア	一七七、六一五 (二四、七〇三)	一四四、八三 (三〇、四三)	三二、二九一 (四、五九)	四九六、六六 (六九、〇七)	五四〇、五四 (七四、三八)	三九八、九六 (四、五六)	三三三、五六 (四九、一八)
ブゼウ州	九三、七六 (二、九〇四)	八三、九七 (一、六〇〇)	二八五、五六五 (三九、七七)	四四三、六六 (六一、九八)	六七、四七八 (八、七七一)	九〇三、九四 (三五、七三)	一、〇七、〇四 (一四八、四五)
パカウ州	六四、五三三 (八、九七四)	六五、八五 (九、〇〇〇)	一七三、三七三 (三、九四七)	一九七、三七 (二七、四三)	一〇一、〇〇四 (七、九六六)	二六八、七五八 (四〇、一六)	三六、三三八 (四九、八三七)
合計	四、四〇、九七 (六二四、八八〇)	六、七八、八四 (八七、〇九)	九、七三、九五八 (一、三三、八八九)	二、一〇、八八六 (一、五四四、〇七)	二、九九、九二三 (一、八〇、九四三)	三、五五四、七六 (一、八五、二三)	三、八六、七九 (一、七三、五九九)

千九百十二年ニハ「ボルデニ」油田ニ連続セル「グロビ」Groni「チ、ウラ」Chir-chira「カバセニ」Capeceiri「ランク」Rancu等ノ地方開發セラレタルモ其産出額ハ之ヲ「ボルデニ」油田ニ加ヘタリ

製油能力ハ次第二増加シテ千九百八年ニハ約二千百五十七萬「バール」ニ達シ千九百十三年ニハ約二千六百六十萬「バール」ナリ、製油所ハ

殆ント「ブラホヴァ」州ニアリテ「プレーースチ」Prost「カムピナ」等ヲ主トス、千九百十年以降ノ原油、製品、輸出、貯油量ヲ擧クレハ次ノ如シ

種別	千九百十年	千九百十一年	千九百十二年	千九百十三年	千九百十四年
原油産出額	九、七二三、八〇七 <small>(三、五二二、四〇七)</small>	一、一〇七、四七五 <small>(二、五四四、八四五)</small>	一、九七六、二二三 <small>(一、八〇四、七六一)</small>	一、三、五五四、七六八 <small>(一、八八五、二五〇)</small>	一、二、八二五、八六〇 <small>(一、七八三、八四七)</small>
製精原油	八、七三七、九九九 <small>(一、二二五、二九九)</small>	一、〇〇九、七五八 <small>(一、四〇四、四〇三)</small>	一、九九五、七二七 <small>(一、六六八、三八九)</small>	一、二、八五〇、二九二 <small>(一、七八七、二四五)</small>	一、〇八五、六二八 <small>(一、六八〇、八九四)</small>
製	八、五九三、八四〇 <small>(一、一九五、二四九)</small>	九、九三〇、八五〇 <small>(一、三八一、二〇三)</small>	一、七八九、七五二 <small>(一、六三九、七四三)</small>	一、二、六三四、五八五 <small>(一、七五七、二四四)</small>	一、九一二、八九五 <small>(一、六五六、八七〇)</small>
揮發油	一、六五八、七五五 <small>(二、三三〇、七〇三)</small>	一、八七四、〇九五 <small>(二、六〇〇、六五三)</small>	二、五三四、四九二 <small>(三、五二一、四九二)</small>	三、〇三四、三一七 <small>(四、二二〇、一九)</small>	二、八五三、四五九 <small>(三、九六六、八六五)</small>
燈油	一、九五七、二七六 <small>(二、七二二、二二二)</small>	二、二四八、三九二 <small>(三、一二一、七一)</small>	二、四八六、三二六 <small>(三、四五一、八〇二)</small>	二、七三二、七三二 <small>(三、八〇〇、七四)</small>	二、五三五、七八四 <small>(三、五二一、六八二)</small>
機械油	一八〇、二一〇 <small>(二、五〇、六四)</small>	一七七、六一五 <small>(二、四七、七〇三)</small>	三一二、三一九 <small>(四、三、四三八)</small>	三四八、一一一 <small>(四、八、四一六)</small>	七一九、三三八 <small>(一、〇〇、四七)</small>
殘滓	四、七九七、五九九 <small>(六、六七、二六〇)</small>	五、六三〇、七四八 <small>(七、八三、一三六)</small>	六、四五六、六九九 <small>(八、九八、〇二)</small>	六、五一九、四二五 <small>(九、〇六、七三五)</small>	五、八〇四、三一四 <small>(八、〇七、二七六)</small>
自國消費	一、三五一、八七一 <small>(五、四八、五七一)</small>	三、〇九〇、四一四 <small>(八、六三、九一五)</small>	一、七九八、八二三 <small>(七、九〇、五六六)</small>	一、八〇四、五四六 <small>(八、一一、四七二)</small>	一、八五八、七七四 <small>(八、四二、七七六)</small>

揮發油	(一四六,〇五八) (二〇〇,三二四)	(一,七二八,八三六) (二四〇,四五〇)	(二二〇,四一七) (三〇,六五六)	(二一六,六四二) (三〇,一三一)	(二二七,七二二) (三一,六七二)
燈油	(三〇〇,八九四) (四一,八四九)	(三二五,九三六) (四三,九四一)	(三五九,〇七六) (四九,九四一)	(三六九,五三七) (五一,三九六)	(三七一,七九五) (五一,七一〇)
機械油	(一二六,一四一) (一七,五四四)	(一六一,〇六三) (二二,四〇一)	(二〇八,四八八) (二八,九九七)	(二四二,四八三) (三三,七二五)	(二九三,四六七) (四〇,八一六)
殘滓	(三六〇,五五一)	(四三四,〇九四)	(五四〇,三八三)	(五六〇,四九二)	(五八四,二五四)
製油所使用燃料	(七七八,七七八) (二〇八,三二四)	(八八四,五七九) (二二三,〇二九)	(一,〇一〇,八四二) (一四〇,五九〇)	(九七五,八八四) (一三五,七二八)	(九六五,七九〇) (二三四,三二四)
輸出	(三,三四五,六三七) (五八一,四八七)	(三,一八七,三三五) (六七七,一九六)	(三,七九六,一七六) (八四六,四二二)	(四,七一九,二九三) (一〇三六,四四六)	
揮發油	(九〇四,一五〇) (二二五,七五一)	(八九四,三二二) (二二四,三八四)	(一,二四九,七四四) (一七三,八一七)	(一,七〇五,二三八) (二三七,一六八)	
燈油	(二,四三九,四三八) (三三九,二二八)	(二,二八九,五九一) (三二八,四四一)	(二,五四二,一一八) (三五三,五六三)	(三,〇〇九,八九二) (四一八,六二二)	
石蠟	(二,〇四九) (二八五)	(三,四二二) (四七六)	(四,三一四) (六〇〇)	(四,一六三) (五七九)	
原油殘滓等	(一一六,二二三)	(二二三,八九五)	(三一八,四四三)	(三八〇,〇七七)	
十二月三十一日ニ於ケル貯油高	(二,五六〇,〇四三) (三五六,〇五六)	(二,六九〇,一〇三) (三七四,一四五)	(二,九七五,一九四) (四一三,七九六)	(二,〇九九,三二三) (一〇九,九七八)	

揮發油	二〇八、五五三 二九〇〇〇六	三七二、八八八 五一、八六二	四三六、〇五二 六〇、六四七	四七九、九〇四 六六、七四六
燈油	四〇六、六四五 五六、五五七	五三一、三九九 七三、九〇八	九〇六、〇〇五 二二六、〇〇九	一、〇四五、九〇一 一四四、四六六
機械油及殘滓	一、九四四、八四五 二七〇、四九三	一、七八五、八一六 二四八、三七五	一、六三三、一三七 二二七、一四〇	五七三、五一八 八七九、七六六

更ニ千九百十三年ノ貯油額ヲ製油所及輸出港ニ區別スレハ左ノ如シ

種別	製油所	輸出港	種別	製油所	輸出港
揮發油	三四四、六〇二 <small>（四七、九二八）<sup>パレル</sup></small>	一三五、二九四 <small>（二八、八一七）<sup>パレル</sup></small>	燈油	七九九、二二二 <small>（一一、一五六）<sup>パレル</sup></small>	二四八、二二七 <small>（三四、五一〇）<sup>パレル</sup></small>
機械油	一一三、三〇〇 二五、七五八	一一、四三三 一、五九〇	殘滓	三七〇、〇六九 五一、四七〇	七八、七〇九 一〇、九四七
計	一、六二七、一八三 二二六、三二二	四七三、五六二 六五、八六四			

羅馬尼ニハ自國ニ石炭ヲ產出スルノ量少ナク之ヲ英國及獨逸ヨリノ輸入ニ仰キ其價格甚タ不廉ナリ、隨テ液體燃料タル原油ノ使用ヲ獎勵シ千九百十年ニハ六百九十一機關車中五百九十五車ハ液體燃料ヲ使用スルヲ得、同年ノ使用量ハ百十二三萬「パレル」ニ達シ其前年ノ約百

萬「バーレル」ニ比シテ増加セリ、千九百十年ニ於ケル石炭、薪材ノ使用量ト石油使用量トヲ對比スレハ左ノ如シ(百分率)

薪材	一〇・一九	液體燃料	六二・二二
カーヂフ及ウエスト フアリア産石炭	一一・八六	内國石炭	一四・八三

液體燃料使用量ハ次第ニ増加シ輸入石炭亦増加スルニ反シ薪材使用量ハ減少ス、千九百十三年使用液體燃料ハ百四十二萬四千二百三十一「バーレル」(十九萬八千八十五噸)ナリ、同年ニ於ケル各使用燃料ノ對比ハ左ノ如シ(百分率)

輸入石炭	二二・一八	薪材	三・二六
内國石炭	一五・七二	液體燃料	五八・八四

現時鐵道ハ石油ヲ運搬スルコト大ニシテ其量約千五百五十萬「バーレル」ニ上リ、鐵管ハ主要油田ト製油所及輸出港トヲ連絡シ其延長約三千基

米ニ達シ、政府ノ敷設ニ係ル「バイコイ、コンスタンザ」[Baicoi-Constanza]ノ鐵管ハ千九百十六年完成スヘク、其延長ハ九百基米ニシテ二千五百萬「フ」ラ「ン」ヲ要シ一年千餘萬「バ」ール「ル」ノ石油ヲ輸送スヘク、其完成スルニ至レハ鐵道ニヨル輸送大ニ減少スルニ至ルヘシ

千九百十二年及千九百十三年ニハ二回「バルカン」半島ニ戰爭アリ、殊ニ千九百十三年ニハ二回油田ニ大火災アリ、又同盟罷工アリテ事業ノ停滯アリシニ關セス幸ニシテ後半期ニハ恢復シ少量ナレトモ產出額増加シタリ、蓋シ數年前ヨリ外國殊ニ英國資本家ノ注目スルトコロトナリ千九百十三年末ニハ英國ノ資本ハ増大シ、佛國然リ、和蘭亦然リ、獨逸ハ其勢力範圍ヲ擴大シ「ダニユ」プ「河」ニヨリ輸入ヲ計リ隨テ「ラチスボン」ハ大ニ發達スルニ至ルヘシ、要スルニ組織ノ改善、油田ノ擴大、資本ノ増加、試掘鑿井ノ増加、輸出設備ノ改善等ハ著シク斯業ノ發達ヲ促スニ至レリ

主要ナル製油所十アリテ產油額ノ百分中九十四・五ヲ製油シ其他四十



九ノ小製油所アリ  
 千九百十三年ノ輸出總額ハ七百四十五萬二千四十七「バール」ニシテ  
 前年ノ六百八萬五千七百八十二「バール」(八十四萬六千四百二十三噸)  
 ニ比シ著シキ増加ナリトス、蓋シ同年「コンスタンザ」ニ於テ戰爭ノ爲メ  
 二箇月間輸出ヲ妨ケラレ其後モ數月間制限セラレタリ、故ニ此事ナカ  
 リセハ輸出ハ更ニ増加シタルナルヘシ、輸出ノ最多ナルハ英國ニシテ  
 佛國及埃及之ニ次キ、獨、埃ヘノ輸出ハ英國ノ半ハニ及ハス、輸出額左ノ  
 如シ

種別	千九百十二年	百分比	千九百十三年	百分比
原油	一九七、七二一 二七、四九八 <small>バール</small>	三・二	二〇五、七八五 <small>バール</small> 二八、六二二 <small>噸</small>	二・七
殘滓	二、〇四一、六二九 (二八三、九五四)	三三・五	二、四五八、三四七 (三四一、九一二)	三三・〇
機械油	五二、八五四 (七、三五一)	一・〇	六八、六一四 (九、五四三)	一・〇
石蠟	四、三一四 (六〇〇)	一・〇	四、一六三 (五七九)	一・〇

燈油	二,五四二,一八 (三五三,五六三)	四一・八	三,〇〇九,八九二 (四一八,六二二)	四〇・四
揮發油	一,二四九,七四四 (二七三,八一七)	二〇・五	一,七〇五,二三八 (二三七,一六八)	二二・九
計	六,〇八五,七八一 (八四六,四二三)	一〇〇・〇	七,四五二,〇四七 (一,〇三六,四四六)	一〇〇・〇

國名	千九百十二年	千九百十三年		
		殘滓	燈油	原油及製精揮發油
英國	一,五四〇,〇六二 (二一四,一九五)	八一〇,五九三 (一一二,七三九)	六四六,八九九 (八九九,九七二)	二二六,九一五 (三〇,一六九)
佛蘭西	一,一七六,八五二 (二六三,六七九)	二二三,三五七 (三一,〇六五)	二八九,三六九 (四〇,二四六)	五六五,八四六 (七八,六九九)
埃及	一,〇二三,九八五 (一四二,四一八)	一七〇,五六一 (二三,七二二)	六九八,五〇一 (九七,一四九)	五,五四三 (七七)
奧國	六二八,四三三 (八六,〇一三)	二九六,七八二 (四一,二七七)	二七,六九六 (三,八五二)	九〇,二八五 (二二,五五七)
獨逸	六〇四,二五五 (八四,〇四一)	一二七,一九一 (二七,六九〇)	二二七,九八一 (三一,七〇八)	五一〇,一四五 (七〇,九五二)
和蘭	一八六,九四〇	二二,一〇三 (二,九三五)	一七二,四〇二 (二,三九七八)	一二七,八二四 (二七,七七八)

伊 太 利	自 耳 義	諸 威	露 國	丁 抹	バルカン諸國	其 他	計
(二六、〇〇〇)	} (七九、〇九〇) (二一、〇〇〇)	} (四、〇四一) (五六二)	(六四、七八九) (九、〇一〇)	(九二、五〇七) (二二、八六六)	土耳其 三八五、〇一七 (五三、五四九) 勃牙利 七四、四七四 (一〇、三五八)	(五八、八六五) (八、一八七)	(二、四五三、一七〇) (三四一、一九二)
(四七七、九七〇) (六六、四七七)			(一八、五七九) (二、五八四)	(四九二、四三六) (六八、四八九)	(二九、一二七) (四、〇五二)	(四八、四八九) (六、七四四)	(三、〇〇九、八九二) (四一八、六二二)

二 開戦後ニ於ケル石油業

千九百十四年ノ下半年ニ戦争開始セラレ羅馬尼ハ中立國ナリシモ石油業ハ直接ノ影響ヲ受ケタリ、然レトモ其開戦前ト開戦後ニ於ケル同

年ノ狀況ヲ區別スルコト困難ナルヲ以テ千九百十四年ヨリ開戦後ニ於ケル石油業中ニ編入シテ記述スヘシ

千九百十四年戦争開始後石油ハ「ダーダネルス」海峡ノ閉鎖ノ結果海上ヨリノ輸出全ク杜絶シ、陸路ハ油槽車ノ缺乏ノ爲メ其輸出意ノ如クナラス、「ダニユーブ」河ニヨレル輸出亦甚タ少ナシ、即チ英國、伊太利、埃及ヘノ輸出ハ殆ント斷絶シ、輸出ノ三分二ハ獨逸ニ、一割二分ハ奧太利ニ入レリ、開戦後一年間ハ「サロニカ」Salonica 及「ニシト」Nish ヲ經テ英國トノ交通アリシモ、勃牙利ノ同盟國ニ加ハリシ爲メ此方面ノ交通亦全ク絶エ僅カニ露西亞及「スカンヂナヴ<sup>キ</sup>ア」ニ依リ之ヲ爲スヲ得タルノミ、蓋シ英國ノ勢力ハ此當時ニ於テ大ニシテ佛國之ニ次キ獨逸ハ之ニ比スレハ比較的の小ナリシナリ

千九百十四年ニ於ケル産油額ハ左ノ如シ

アラホヴァ州

一、〇四七、六二九  
二、五三六、五二七  
噸

バ カ ウ 州	ダ ム グ オ ヴ キ ツ ア 州	カ ム ビ ナ ボ イ ア ナ	バ ス テ ナ リ 、 カ リ ネ ト 、 ポ ル テ ニ
			二、一三、七六七 (二九三、九八七)
			一、二五四、七四八 (一七四、五一三)
			三、五三、五一八 (四九、一六八)
			三、五八、三三八 (四九、八三七)
合 計	ア ゼ ウ 州	其 他	モ レ ニ
			六、四四二、九三〇 (八九六、〇九六)
			一、二三六、一八四 (二七一、九三〇)
			一、〇六七、二〇四 (一四八、四一五)
			二、八二六、五七九 (一、七八三、九四七)

「モレニ」「カムピナ」地方ハ貯油設備ナキ爲メ産出額ヲ制限シ其結果前  
 年ニ比シ減少シタリ、殊ニ「モレニ」油田ノ如キ一日一萬噸以上ヲ産出ス  
 ル良井アリテ九月ニハ之ニヨリ調節シタリ  
 千九百十四年ニ於テ製油能力ハ約三千百七十八萬「バール」ナリ、而シ  
 テ同年製油所ニ於テ處理セル原油量ハ約千百九十一萬「バール」ニシ  
 テ前年ノ約千二百六十三萬「バール」ニ比シテ減少ス、而シテ開戦前九  
 箇月ト開戦後三箇月トヲ比較スルニ製品ニ差アリ、是レ戦時禁制品ア  
 ルト製品ノ使用ニ變化ヲ來セル結果ナリトス、即チ九箇月ノ産油額約

九百三十「バーレル」、製油所ニ送致製油セル量約九百二十九萬「バーレル」、原油輸出約十萬「バーレル」ナルニ反シ、三箇月ノ產油量約三百五十二萬「バーレル」中二百八十萬「バーレル」ヲ製油シ、輸出ハ甚タシク減退シテ貯油増加シ油田ニ於ケル動力ハ電氣、瓦斯及揮發油ニ變シ重油使用ノ途ナク貯油ハ増加スルノミナリ、千九百十四年ニ於ケル製品左ノ如シ

產 出 額  
 一二、八二六、五七九  
 一、七八三、九四七

製精原油量  
 一二、〇八五、六二八  
 一、六八〇、八九四

揮 發 油	二、八五三、四五九 (三九六、八六五)	燈 油	二、五三五、七八四 (三五二、六八二)
-------	---------------------	-----	---------------------

機 械 油	七一九、三三八 (二〇〇、〇四七)	殘 滓	五、八〇四、三一四 (八〇七、二七六)
-------	-------------------	-----	---------------------

製油合計 一一、九一二、八九五(一、六五六、八七〇) 製 品 量 九八・五%

之ヲ前年ニ比較スルニ左ノ如ク機械油ノ製造高増加シタリ(百分率)

年 別	揮 發 油	燈 油	機 械 油	殘 滓	其 他
-----	-------	-----	-------	-----	-----

千九百十三年	二二・三・六	二一・三	二・七	五〇・七	一・七
千九百十四年	二二・三・六	二一・〇	五・九	四八・〇	一・五

千九百十四年ニ於ケル内國使用量ハ左ノ如シ

揮發油	二二七、七二二 <small>（三二、六七二）噸</small>	燈油	三七一、七九四 <small>（五一、七二〇）噸</small>
機械油	二九三、四六七 <small>（四〇、八一六）</small>	殘滓	三、七六九、三八六 <small>（五二四、二五四）</small>
ペラフキン	一〇、一八一 <small>（一、四一六）</small>		

此ノ如キ狀況ナルヲ以テ貯油ハ増加シ千九百十三年末ノ貯油量二百萬「バール」内外ナルニ對シ千九百十四年末ニハ約六百六十萬「バール」以上ニ増加シタリ、而シテ貯油設備ハ約千四十二萬「バール」〔百四十五萬噸〕ニシテ此外鐵道ニ屬スルモノ七千餘「バール」アリ  
輸出ハ「コンスタンザ」海港ヨリ海上ニヨルモノ七十「バール」セント「内外」ニシテ千九百十四年ニハ同港ニ於ケル政府所有ノ貯油設備ハ其容量百

二十七萬五千八百餘「バーレル」ナリトシ此外民間會社ノ貯油設備百八萬千餘「バーレル」アリ、開戦後輸出殆ント杜絶シタルヲ以テ輸出額前年ニ比シ遙カニ減少シタリ、即チ同港ヨリノ輸出左ノ如シ

國名	千九百十三年	千九百十四年	國名	千九百十三年	千九百十四年
獨逸	四、五七五、二八五 (六三三、六三四) <sup>バーレル</sup>	二、三〇、〇三七 (三二、九九四) <sup>バーレル</sup>	和蘭	三六八、九一二 (五一、三〇九) <sup>バーレル</sup>	二、三五、〇七〇 (三二、六九四) <sup>バーレル</sup>
英國	一、五四三、一四六 (二一四、六二四)	五五七、四八四 (七七、五三六)	諸威	一四八、六一七 (二〇、六七〇)	八九、六一三 (二、五二二)
奧太利	二七六、六一四 (三八、四七二)	一四〇、八一六 (一九、五八五)	土耳其	二〇二、七二九 (二八、一九六)	一一三、六一六 (一五、八〇二)
白耳義	八四、八七一 (二一、八〇四)	九七、六九〇 (二一、五八七)	露西亞	三〇、八〇二 (四、二八四)	四六、六五六 (六、四八九)
丁抹	六〇、九九三 (八、四八三)	七〇、六八五 (九、八三一)	佛蘭西	一、〇四九、〇二八 (一四、五九〇)	三二六、三七七 (四五、三九三)
埃及	八五六、八一 (一一九、一六七)	四五〇、七九一 (六二、六九七)	合計	六、〇八九、七〇〇 (八四六、九六八)	三、二四三、一〇〇 (四五、〇五七)
希臘		三〇、六五一 (四、二六三)	輸出總額	七、四五二、〇四七 (一〇、三六、四四六)	四、七〇二、四三二 (六五四、〇二四)
伊太利	八九三、二〇六 (二四、二二九)	八一七、八三四 (二一三、七四六)			



此外「メヂア」Medea港ニハ會社ノ貯油設備アリテ約九十二萬四千「バーレル」ヲ容ルヘク、同港ヨリノ輸出ハ大ナラス、「ダニューブ」河港ナル「ブレーラ」、「ギウルギウ」、「オルテニツ」Oltantzaノ設備ハ約三十萬「バーレル」ニ過キスシテ更ニ寡少ナリトス、而シテ油槽車ノ數Tank Wagon四千二十二アリタリ

千九百十五年ニハ原油、殘滓、揮發油ノ輸出禁止セラレ、開戰前輸出ノ九十「パーセント」ヲ司レル海上輸送ハ前年ト同シク全ク杜絶シ、僅カニ「プロヂール」Prodealヲ經陸路ニヨリテ獨、塊ニ輸出スルノミ、斯クシテ貯油ノ困難ト鑿井及製油材料供給ノ不足トニ加フルニ財政上及技術上ノ困難ヲ致セリ、而モ幸ニ石油業ハ無事ニ發達セリ、蓋シ價格騰貴ノ爲メ燈油、機械油、瓦斯油ノ如キ輸出シ得ルモノハ利益多ク一部ノ事業家ハ利益ヲ擧クルヲ得タルモ、戰時禁輸品ハ貯藏非常ニ増加シ價格ハ開戰前ノ半價ニ暴落スルニ至リ、小資本家ハ諸機械暴騰ノ爲メ又勞働者不足ニ困難セリ、隨テ新ニ貯油ノ設備ニ資本ヲ要シ、陸上輸出ノ爲メニ油

槽車ヲ購入スル等ノ必要ヲ生シタルモ、資本家ハ資本ノ投下ヲ控ヘ殊ニ外國ノ資本家ハ資本投下ヲ中止スルニ至レリ、其結果或ハ出油井ヲ閉塞シ或ハ鑿井ヲ減シ産油ノ減少ヲ計レルモ尙事業ハ進捗シ「バナ、モレニ」Bana-Moreniニハ新深掘井ヲ開鑿シ「スタヴロポレオス」Savropoleosノ北部ハ著シク其區域廣カレリ、千九百十四年發見ノ「オチウリ、ラヅヴァード」Ochiuri-Razvadハ開發セラレ、「バステナリ」ノ南西ニ於テハ豊富ナル油層アルコト證明セラレ、此外「バイコイ、フェルバトリ」Paicoi-Ferbatioriノ連續ナル「フロスチ」Floresti「オクニツ、コバチシ」Onitza-Copatsishi「モレニ」ノ西方「モレニ、バナ」Moreni-Banaノ北西「ビスキュリ」Piscuiri「スカイオシ」Scatisi「コスミネレ」Cosmincele「ン、キョンチ」Pacureiiニ於テモ活潑ニ作業セラレ、「モレニ」附近ノ「チ、ウラ」Chichira「ツイカニ」Tucani「グロピ」Gropii「フリペスチ」Filipesti「グラ、オクニテイ」Gura-Oaitaiノ地亦發達シ、産出額ハ斯ク困難アリシニ關セス前年ニ比シ僅カニ六「パーセント」ノ減少ニ過キス、即チ左ノ如シ、而シテ「モレニ」、「カムピナ」ニ於ケル減油ハ貯油設備ナキニヨリ、「ブセウ」ニ於ケル原

油ハ「ブレースチ」ニ於ケル製油所ニ輸送ノ困難ナリシカ爲メナリ

千九百十五年

プ ラ ホ ヴ ア	一〇、二九〇、九八九 <small>パレル</small> （一、四三二、二九二） 噸				
モ レ ニ	推定 四、四一三、五五三 （六、二一三、八四六） 噸	「バイコイ」	一、二八〇、二五二 <small>パレル</small> （二、七八〇、六〇〇） 噸	「バステナリ」	二、〇五六、五九二 <small>パレル</small> （二、八六〇、三五五） 噸
カ ム ビ ナ	八六七、五二四 （二、二〇〇、六五七）	「チンチア」	六六四、八四五 （九、二四六八）	「其他」	一、四〇〇、二二五 推定
タ ム ホ ヴ 井 ツ ア	七二四、九二五 （一、〇〇〇、八二四）				
ブ セ ウ	八〇五、九八五 （一、二二〇、九九八）				
パ カ ウ	二〇八、〇一四 （二、八九三）				
合 計	一一、〇九九、一二五 （一、六七三、一四五）				

製油量ハ左ノ如シ

種

別

千九百十四年

千九百十五年

製 精 原 油 量	一二、〇八五、六二八 <sup>「バーレル」</sup> (一、六八〇、八九四) <sup>噸</sup>	一二、三六七、二五三 <sup>「バーレル」</sup> (一、五八〇、九八一) <sup>噸</sup>
製 油 量	一一、九一二、八九五 (一、六五六、八七〇)	一一、一七一、八四四 (一、五五三、八〇三)
揮 發 油	二、八五三、四五九 (三九六、八六五)	二、八三八、六七七 (三九四、八〇九)
燈 油	二、五三五、七八四 (三五二、六八二)	一、八九五、五二一 (二六三、六三三)
機 械 油	七一九、三三八 (一〇〇、〇四七)	九三二、四三五 (一二九、六八五)
殘 滓	五、八〇四、三一四 (八〇七、二七六)	五、五〇五、二一〇 (七六五、六七六)

千九百十五年ニハ原油ノ輸出ナシ、而シテ原油價格ノ暴落、販賣ノ困難ノ爲メ重油ハ他ニ使用ノ途ヲ講セシモ千九百十五年ノ終ニハ原油ノ貯藏約百三十二萬「バーレル」ニ達セリ、而シテ使用製品變化ノ爲メ製品ニ差ヲ生セリ、即チ左ノ如ク燈油減少シ機械油増加シタリ

種 別	千九百十四年	千九百十五年	百 分 率
-----	--------	--------	-------

揮發油	二二・六%	二四・九%	增	一・三%
燈油	二一・〇	一六・七	減	四・三
機械油	五・九	八・二	增	二・三
殘滓	四八・〇	四八・五		
損失	一・五	一・七		

製油所ヲ各州ニ區別スレハ左ノ如シ

バカウ	(七、七三三) <sup>パレル</sup>	ダムボグヰツア	(六〇三、五〇七) <sup>パレル</sup>	其他	(四、三三九) <sup>パレル</sup>
アセウ	(二一、五〇〇) <sup>パレル</sup>	イルフオヰ	(一一六、四三五)		
コンスタンザ	(三〇五、三八八) <sup>パレル</sup> (四二、四七四)	プラホヰア	(一〇、〇五三、六三三) <sup>パレル</sup> (一、三九八、二八〇)		

内地使用量ハ左ノ如シ

種別	千九百十四年	千九百十五年
----	--------	--------

揮發油	二二七、七二二 (三一、六七二)	二二八、三六九 (三一、七六二)
燈油	三七一、七九五 (五一、七二〇)	三七九、二〇八 (五二、七四二)
機械油	二九三、四六七 (四〇、八一六)	三四七、六二二 (四八、三四八)
殘滓	三、七六九、三八六 (五二四、二五四)	三、六〇八、九七〇 (五〇一、九四三)

製油所ニ於ケル製品貯藏高ハ千九百十四年ノ終ニ約三百六十萬「バーレル」ナリシモ千九百十五年末ニ約五百七十五萬「バーレル」ニ増加セリ、而シテ千九百十四年四月一日ノ製油能力ハ約二千九百八十二萬「バーレル」ナリシモ千九百十五年四月一日ニハ約三千二百萬「バーレル」(四百四十五萬千四百噸)ニ増加シタリ

千九百十五年ノ輸出ハ戰前ノ千九百十三年ノ輸出ト約四百三十一萬「バーレル」ノ差アリテ僅カニ其四十二「パーセント」ナリトス、千九百十三年ノ輸出額ハ產出額ノ五十三・九「パーセント」ニ、千九百十四年ハ三十六・六ニ、千九百十五年ハ二十五・六「パーセント」ニ當リ内國使用量ハ原油產

出額ノ四十五「バーセント」ナリ、隨テ前記ノ如ク製品貯藏額増加セリ  
 千九百十三年ニ於テ海上及「ダニューブ」河ニヨレル輸出ハ約七百四十五  
 萬「バーレル」中ノ約六百九十一萬「バーレル」即チ九十三「バーセント」ヲ占  
 メシモ、千九百十五年ニハ之ニヨレルモノ三十二三萬「バーレル」即チ約  
 十「バーセント」ニ減シ、陸ニヨルモノ九十「バーセント」トナリ平時ト相反  
 ス、輸出額左ノ如シ

	原 油	殘滓及 瓦斯油	機 械 油	燈 油	揮 發 油	石 蠟	合 計
千九百十三年	二、〇五、九三三 （二八、六三三）噸	二、四五六、三四七 （三四、九二二）噸	六、八六二、四四〇 （九五、四四〇）噸	三、〇〇九、八三三 （四一、八六三）噸	一、七五五、三三六 （三七、一五〇）噸	四、一三三、〇四七 （五七、〇〇〇）噸	七、四四三、〇四七 （一〇、〇六、四四〇）噸
千九百十四年	一、〇七、七六二 （一五、四〇七）噸	一、三〇四、九三〇 （一七、七五三）噸	六、九五六、八六七 （八六、二七〇）噸	三、二一四、八二二 （四七、七八〇）噸	一、八〇、二八八 （二、六四、四三三）噸	三、八五四、〇四三 （五三、〇〇〇）噸	四、七七〇、四四三 （六五、四〇四）噸
千九百十五年	九、九四四、四四五 （二七、四）噸	四、〇四〇、四六六 （六八、二五）噸	五、六四四、四四四 （七二、八二四）噸	一、九六二、五二一 （二七、三九〇）噸	九四、四二二 （三、三三）噸	一、七七七、〇二四 （二四、〇〇〇）噸	三、〇八五、三三六 （四九、〇八七）噸

原油、殘滓、石蠟ハ輸出ヲ禁止セラレ、揮發油ハ國內ニ保留セラレ、嘗テ六  
 十「バーセント」ヲ占メシモノ著シク減少シ、之ニ反シ機械油、瓦斯油著シ  
 ク増加スルニ至レリ、輸出額別左ノ如ク戰前ト戰後ト大ニ異ニシテ其

大部ハ獨、塊ニ入レリ

國名	千九百十四年	千九百十五年
アルジェリア	六〇、〇八〇 <small>パレル</small> (八、三五六) <small>増</small>	
獨逸	七二二、九九六 (九九、一六五)	一、二二二、二〇七 <small>パレル</small> (一五四、六八八) <small>増</small>
英國	五六〇、六一一 (七七、九七一)	一六〇、六一一 (二二、三三八)
塊洪國	六〇五、七七九 (八四、二五三)	一六二、二七七 (二二、五六九)
白耳義	一二九、九六六 (二八、〇七六)	一、八一九 (二五三)
勃牙利	一三四、三七四 (二八、六八九)	二四一、三五四 (三三、五六八)
埃及	四五〇、九一四 (六二、七一四)	二、七三二 (三八〇)
佛蘭西	三五九、七〇一 (五〇、〇二八)	
希臘	八九、一九九 (一二、四〇六)	六四〇 (八九)



和	蘭	二二三、七九六 (三一、二二六)	
伊	太利	七七七、五五五 (一〇八、一四四)	
諸	威	六七、七五九 (九、四二四)	
露	西亞	五〇、四四五 (七、〇一六)	四、一五六 (五七八)
セル	ガ非ア	一七五、二一三 (二四、三六九)	二〇、八八七 (二、九〇五)
丁	抹	七一、三二四 (九、九八八)	三九五 (五五)
土	耳古	二二六、二一九 (三一、四六三)	五八、八九三 (八、一九一)
瑞	西	六、〇一 (八三六)	一八、五五七 (二、五八一)
合	計	四、七〇二、四三三 (六五四、〇二四)	三、〇八五、一三六 (四二九、〇八七)

總輸出額三百八十九萬「パーレル」中二百七十三萬「パーレル」即チ九十「パーセント」ハ中央同盟國ニ入り、二百六十八萬「パーレル」即チ八十七「パーセント」ハ「ブレヂール」ヲ通過セリ

此ノ如ク「コンスタンザ」ヨリノ輸出殆ント杜絶シタルヲ以テ河港ナル「ブレーラ」ニ貯油設備ヲナスニ至リ「ブレーラ」ニ百六十一二萬「バール」  
「ギウルギウ」ニ五十二萬「バール」  
「オルニツア」ニ二十八萬九萬「バール」ヲ  
容ル、貯油設備ヲ了シ、油田、製油所、輸出港ニ於ケル設備千十四五萬「バ  
ール」ヲ容ル、ニ足り、政府鐵管部ニ屬スルモノ約九十萬「バール」、  
「コンスタンザ」州ニ屬スルモノ百十八萬九萬「バール」アリ、其他ヲ加ヘ其  
設備千二百二十四萬「バール」ニ達スヘク、此外政府鐵道部ニ屬スル  
貯油設備七十一二萬「バール」アリ  
千九百十六年ニ入りテ從業者ノ缺乏等更ニ石油業ニ困難アリシモ産  
出額ハ少額ノ減少ニ過キス、即チ一月ヨリ三月ニ至ル三箇月間ノ産油  
額、製油額等ハ左ノ如シ

プラボグア	二、三二一、二七六 (三二一、四五七) <sup>噸</sup>			内國消費額
モレニ	一、三二七、六八三 (一八三、二六六) <sup>噸</sup>	精製原油	三、一三七、一三四 (四三六、三一九) <sup>噸</sup>	

合	計	二、七四二、〇九四 (三八一、三七六)	合	計	一、八四〇、四七五 (二五五、九七七)		
バ	カ	ウ	石	蠟	五、二四八 (七二六)		
プ	セ	ウ	殘	滓	一、四六五、五八一 (二〇三八三六)		
ダ	ム	ボツ	機	械	油	三、一四、九二九 (四三、八〇二)	
其	他	二、八二、七九〇 (三九、三三二)	燈	油	五、四〇、九一一 (七五、二三一)		
カ	ム	ヒナ、ボイ	揮	發	油	七、五二、〇四五 (二〇四、五九六)	
パ	リ	テ	製	油	總	額	三、〇七三、四六六 (四二七、四六四)
合	計	五、二八、三七九 (七三、四八八)	合	計	五、三、八一〇 (七、四八四)		

獨、埠國ニ對スル輸出ハ盛ナルモ其量ハ產油額ニ比シ小ナルヲ以テ貯油ハ隨テ増加ス、同月ニ於ケル輸出額左ノ如シ

獨	逸	勃	牙	利	八二、四九一 (一一、四七三)	
埃	及	六六、一七七 (九、二〇四)	瑞	西	三、二、四三四 (四、五一二)	
土	耳	古	三、七、七〇四 (五、二四四)	獨	逸	四、三七、五九九 (六〇、八〇一)
埃	及	六六、一七七 (九、二〇四)	獨	逸	四、三七、五九九 (六〇、八〇一)	

セルゾホア

(九三)  
(一三)

合 計

六六九、八三四  
(九三、一六〇)

四五兩月ノ輸出ハ次ノ如シ

國 名	殘 滓	機 械 油	燈 油	揮 發 油	合 計
獨 逸	四三、四二〇 (六〇、三九九)	二八七、五一四 (三九、九八八)	二二一、二一三 (二九、三七六)	四、三三六 (六〇、三)	五四六、四八三 (七六、〇〇六)
スカンディナヅホア	一〇一 (一四)		一七、〇五五 (二、三七二)		一七、一五五 (二、三八六)
瑞 西					
土 耳 古		九一三 (二七)	一〇一、三〇七 (二四、〇九九)	一、〇七九 (二五〇)	一〇三、二九九 (二四、三六七)
其 他			二八〇 (三九)	七一九 (二〇〇)	九九九 (一三九)
合 計	五六、八〇八 (七、九〇二)	二九五、三〇八 (四一、〇七二)	三七二、三七〇 (五一、七九〇)	一〇、一九五 (一四一八)	七三四、六八一 (二〇、一八一)
獨 逸	一〇、四九〇 (一、四九九)	三、四八七 (四八五)	一、三、四六〇 (一、八七二)	二、二六〇 (三〇)	二七、八二七 (三、八一六)
勃 牙 利	二、七九七 (三九九)	三、三九四 (四七二)	一、三、一五 (一、八二四)		一九、五二一 (二、七二五)
奧 國					
匈 國					
合 計					

六月輸出額

三二、八二〇  
三〇、八五〇

千九百十六年一月ヨリ八月參戰ニ至ルマテノ産油額左ノ如シ

月次	産油額	月次	産油額
一月	九三一、一〇五 <small>（一九五〇）</small>	五月	一、〇七八、五〇〇 <small>（一五〇、〇〇〇）</small>
二月	八六九、九九〇 <small>（二二二、〇〇〇）</small>	六月	一、〇〇六、六〇〇 <small>（一四〇、〇〇〇）</small>
三月	九三九、〇二四 <small>（一三〇、六〇〇）</small>	七月	七四二、〇六四 <small>（一一七、二一六）</small>
四月	九〇八、八一六 <small>（二二六、四〇〇）</small>	八月	八九八、七五〇 <small>（二二五、〇〇〇）</small>

本年ニ於テ産出額ノ著シキ良井數多アリ、就中深サ四百二十四米ノ「バ  
イコイ、フエルボトラ」Baikoi-Fukubotoraノ良井ハ背斜軸ノ南西翼ニアリテ四月  
二十四日ヨリ噴出シ六月二日砂ヲ以テ閉塞セラレタリ、五月二十八日  
ヨリ六月二日ニ至ル間ニ二十三萬「バーレル」ヲ噴油シ六月二日ニハ  
二三萬「バーレル」ヲ噴油シ、六月二十二日迄ニ三十二三萬「バーレル」ヲ噴

出シタルナルヘク其勢盛ナリトス  
此ノ如キ狀況ニアルヲ以テ產出額ハ大ナル減少ナク隨テ貯油量ハ著  
シク増加シ之カ處理ニ困難ヲ生スルニ至レリ、而シテ羅馬尼ハ千九百  
十六年八月參戰シ爾後獨逸ハ石油ノ缺乏ニ苦痛ヲ感シタルナルヘク、  
而シテ同國ニ於テ爾後ハ全ク露西亞ニ輸出スルニ至レリ  
獨逸ハ即チ急速ニ羅馬尼ノ油田及貯油ヲ占有センコトヲ期シタリ、蓋  
シ前記ノ如ク羅馬尼ニハ貯油ハ七百萬「バーレル」以上ニ達シ「コンスタ  
ンザ」ニ於テモ約二百八九十萬「バーレル」ノ貯油アリシナルヘク、「ブレ  
ラ」ニ於テモ相當ノ貯油アリ、而シテ奧國ハ一時羅軍ノ爲メニ侵略セラ  
レタルモ十月獨、奧軍ハ攻勢ニ轉シテ急速ニ羅國ニ殺到シタリ、是ニ於  
テ英國ヨリ特派セラレタル軍隊ハ十一月下旬ヨリ油田ノ破壞ニ著手  
シ、二十六日最西「ダムヴヅ」州ノ「タルゴヅ」製油所ヨリ破  
壞ヲ開始シ「ラスヴ」<sup>nd</sup>「Rasvud」ニ至リ二十七日ニハ「モレ」油田ノ破壞ヲ了  
リ貯油ニ放火シ、十二月二日獨、奧軍侵入ノ數時間前ニ全部ノ破壞ヲ了

シタルモ「ブレーラ」ニ於ケル貯油ノ一部ハ敵手ニ入りシナルヘク、十月「コンスタンザ」ニ於ケル貯油モ一部ハ獨軍ニ占領セラレシナルヘシ  
羅馬尼油田ノ破壞ハ甚タ激甚ニシテ油井ノ如キハ坑底ニ「ペーラー」其  
他種々ノ鐵器ノ破片ヲ投下シ「ビット」ヲ轉倒降下スル等殆ント恢復ノ餘  
地ナカラシメタリ、獨逸ハ其占領後「カムピナ」ニ油田管理局ヲ置キ極力  
之カ復舊ニ力メタルモ千九百十七年二月マテハ之ヲ開掘スルコト能  
ハサリキ、同月初旬一井ニ成功スルヤ其經驗ニヨリ開掘漸次速カナル  
ニ至リ、此外新ニ鑿井ヲ開始シ其結果產油額ノ増加ヲ致シ、現時獨逸ヘ  
ノ輸出ハ甚タ盛ニシテ主ニ鐵道ニヨリ之ヲ輸送シ其產出額ハ殆ント  
參戰前ニ於ケルト同一額ニ達セントシ一鐵道線ハ全ク送油列車ノ運  
搬ヲナセリ、爲メニ羅馬尼ニハ燃料ノ缺乏甚タシク原油ハ軍事上ニ使  
用セラレ嘗テ燃料ニ使用セラレタル殘滓ハ更ニ製精セラル、ニ至リ  
遂ニ褐炭ヲ使用セサルヘカラサルノ悲況ニ陷レリ

## 結 章

瓦利亞ニ於ケル石油業ハ千九百年ヨリ「ボリスロー」油田、千九百四年ヨリ「タスタノウス」油田ノ開發ニヨリ急速ニ發達シ、其產出額ハ千九百九年ニ於テ最高ニ達シ千四百餘萬「バーレル」ニ達シタルモ適當ナル輸出港ナク、市場ニ於ケル競争ノ結果貯油増加シ價格暴落シタルト、油井内ニ鹽水浸入シタル爲メ產油額ハ次第ニ減退スルニ至リ、開戰前ノ千九百十三年ニハ七百餘萬「バーレル」ニ減少シタリ、羅馬尼ニ於ケル石油業ハ徐々ニ發達シ千八百九十九年ニハ其產油額百萬「バーレル」ヲ超過シ「カムピナ」ニ次テ「バステナリ」、「ホルデニ」、「モレニ」等ノ油田相次テ發達シ殊ニ「モレニ」油田ノ發達著シク開戰前ノ千九百十三年ニハ七百餘萬「バーレル」ヲ產出シ同年ニ於ケル總產油額千三百餘萬「バーレル」ニ達セリ、而シテ黑海沿岸ノ「コンスタンザ」港ニ於ケル輸出ニ對スル設備ハ次第ニ完成シ產出額ノ過半ハ之ヲ海外ニ輸出シタリ

開戰後瓦利亞油田ハ約一年間交戰地域タリシヲ以テ產出額著シク減少シタルノミナラス貯油ハ放火セラレテ其損害尠少ナラス、蓋シ獨、



埃ニハ相當ノ貯油アリシナルヘシト雖モ戰時消費セラル、石油量ハ多大ニシテ永ク貯油ニ據ルコト能ハサルナリ、而シテ其供給ノ如何ハ勝敗ノ岐ル、トコロナルヲ以テ極力之カ復舊ヲ計リ其結果一箇月五六十萬「バーレル」ヲ產出スルニ至レリ

戰時ニ於ケル獨、埃軍ノ石油ノ需要額ハ之ヲ知ルノ資料ナシト雖モ之ヲ英、佛ノ使用量ヨリ推測スルニ一千萬「バーレル」ヲ下ルコトナカルヘク、而シテ獨、埃軍ニハ獨逸ノ產出スル百萬「バーレル」及瓦利西亞油田ノ產出額七百萬「バーレル」合計約八百萬「バーレル」ノ石油アルモ貯油及羅馬ニヨリノ輸入石油ニヨリ其需要ヲ充タスコトヲ得タリト信スヘキ理由アリ、而モ羅馬ニノ參戰ニヨリ同國ヨリノ輸入ハ全ク杜絶シタリ

開戰後羅馬尼油田ハ其產出額甚タシク減少セスシテ一年能ク千二百萬「バーレル」ヲ產出ス、然ルニ「ダーダネルス」海峽封鎖ノ爲メ輸出ノ大部ヲ占ムル海上ヨリノ輸出ハ杜絶シ陸路及河上ヨリノ輸出意ノ如クナラス、且ツ戰時禁制品トシテ其一部ハ輸出ヲ制限又ハ禁止セラレ貯油

大ニ増加シタリ、之ニ反シ前述ノ如ク獨、埃ニ於テハ石油ノ補充ニ苦慮スルノ状態ニアリ、蓋シ當初ヨリ獨、埃ニ於テハ羅馬尼油田ニ著眼シタルヘク、同國ノ參戰スルヤ獨、埃軍ハ暫ク其爲スニ任セテ埃國內ニ退却シタルモ數月ナラスシテ同國ニ殺到シタリ、英軍ノ敏捷ナル能ク油井ヲ破壊シ貯油ニ放火シタリト雖モ貯油ノ一部ハ敵手ニ入りタルヘク、油井ハ數月ノ努力ノ結果次第ニ復舊シ遂ニ開戰前ト同一ノ產油アルニ至リシトノ報アリ

瓦利西亞及羅馬尼油田ハ開戰前ノ千九百十三年ニ於テ一ハ七百餘萬「バーレル」、二ハ千三百餘萬「バーレル」ヲ產出シ後者ハ尙發達ノ域ニアリ、前者ハ稍衰退セントシ之カ恢復ニ努力中ニアリタリ、而シテ兩油田ノ產油額ハ之ヲ合算セハ約二千萬「バーレル」ナリトス、開戰後兩油田ハ時ニ交戰地域ト化シ一時其產油額減少シタルモ現時ハ殆ント恢復シテ開戰前ト同一ノ状態ニ復セリト云フ、開戰ノ當初ニ於テ獨逸ハ此兩油田ノ產油額ヲ以テ戰時ニ於ケル消費額トシテ打算シタルナルヘク、貯

油ノ次第ニ減少シ羅馬尼ヨリノ石油ノ輸入意ノ如クナラサルヤ遂ニ羅馬尼ノ參戰トナリ數月ニシテ同油田ヲ占領シタリ、是ニ於テカ自國ニ産スル約百萬「バーレル」ノ石油ト共ニ一年二千萬「バーレル」ノ石油ハ之ヲ瓦利亞及羅馬尼油田ニ仰クヲ得テ優ニ國內ニ於ケル需要ニ充ツルヲ得ヘク其消費ニ對シテ餘アルニ至レリ

大正七年十一月二日印刷  
大正七年十一月五日發行

# 著作權所有

# 農 商 務 省

印刷者 吾妻菊三郎  
東京市神田區通新石町三番地

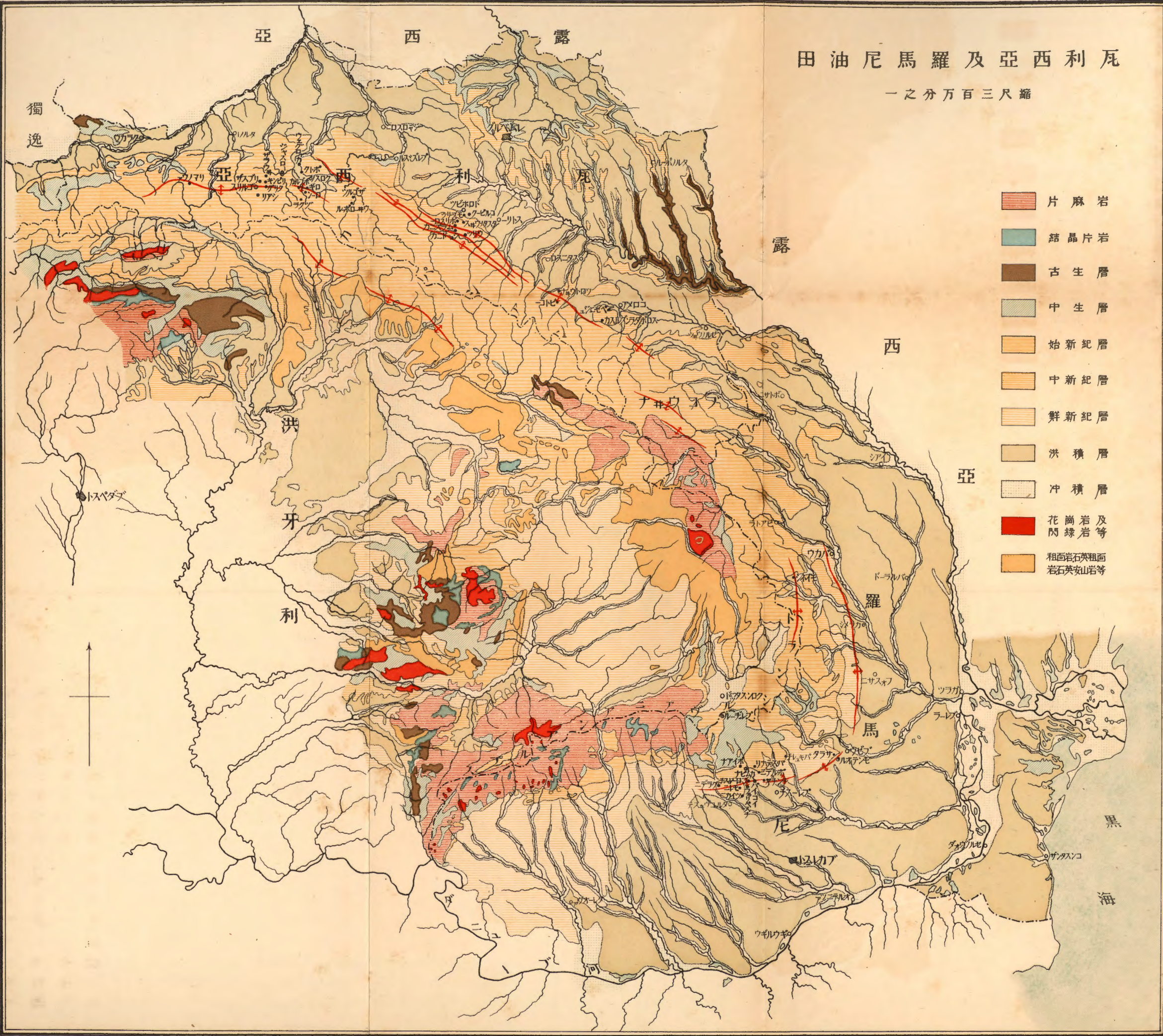
印刷所 合資會社 東陽堂  
東京市神田區通新石町三番地

發賣所 合資會社 東陽堂  
東京市神田區通新石町三番地

電話本局九二九番  
振替口座東京二三四三六番

# 田油尼馬羅及亞西利瓦

一之分万百三尺縮



- 片麻岩
- 結晶片岩
- 古生層
- 中生層
- 始新紀層
- 中新紀層
- 鮮新紀層
- 洪積層
- 冲積層
- 花崗岩及閃綠岩等
- 粗面岩石英粗面岩石英安山岩等

